半島と干拓が育む　人と大地の物語
男鹿半島・大潟ジオパーク

日本ジオパークネットワーク活動開始10周年記念

第８回日本ジオパーク全国大会2017
男鹿半島・大潟大会
2017.10/25(水)~27(金) 報告書

テーマ
あしたへ
～日本のジオパーク！東北から発信！～

東北のジオパークと共に創る

主　催／第８回日本ジオパーク全国大会男鹿半島・大潟大会実行委員会、一般財団法人自治総合センター
（実行委員会）男鹿市／大潟村／男鹿市教育委員会／大潟村教育委員会／男鹿市商工会／(一社)男鹿市観光協会／(株)ルーラル大潟
NPO法人あきた地域資源ネットワーク／大潟村案内ボランティアの会／男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会
（アドバイザー）秋田県
共　催／日本ジオパークネットワーク、日本ジオパーク委員会
後　援／秋田県、秋田県教育委員会、ＥＳＤ活動支援センター
日本ジオパークネットワーク東北ブロック、秋田県ジオパーク連絡協議会

目　次

あいさつ …… 1
開催概要 …… 2
大会プログラム …… 3
開催報告 …… 4
　大会前日　10月24日（火） …… 4
　　ＪＧＮ事前相談会
　　ＪＧＮ運営会議
　　プレ交流会
　大会１日目　10月25日（水） …… 5
　　ＪＧＮ全地域事務局長会議
　　開会セレモニー
　　基調講演
　　パネルディスカッション
　小中高大生ポスターセッション …… 7
　一般ポスターセッション …… 8
　ブース展示 …… 10
　ジオの恵み物産展 …… 11
　大交流会 …… 12
　高橋章子氏絵画展 …… 13
　参加者⇔市村小学生との特別郵便 …… 13
　サイトを学ぼう！楽しもう！ …… 13
　大会２日目　10月26日（木） …… 14
　　閉会セレモニー
　　エクスカーション（ジオツアー）開始
　分科会概要 …… 15
　　分科会報告
　大会３日目　10月27日（金） …… 36
　　エクスカーション
大会宣言 …… 41
各種広報 …… 42
　歓迎看板・のぼり旗
　周知活動
　広報・印刷物
　作成・配布物
　新聞掲載
参加者数 …… 44
実行委員会・運営協力者名簿
協賛企業・団体一覧

書　　名	第８回日本ジオパーク全国大会2017　男鹿半島・大潟大会報告書
印刷・発行	平成30年２月28日
編　　集	第８回日本ジオパーク全国大会男鹿半島・大潟大会実行委員会
	〒010-0595　秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1　E-Mail：geopark@city.oga.akita.jp
印　　刷	株式会社 八郎潟印刷

大潟富士

大会にご参加くださった皆様へ

第８回日本ジオパーク
全国大会2017男鹿半島・
大潟大会実行委員会
実行委員長（男鹿市長）

菅原 広二

平成29年10月25日から３日にわたり開催いたしました「第８回日本ジオパーク全国大会2017男鹿半島・大潟大会」は、ご参加いただきました皆様のご協力のもと、無事に終了することができました。厚くお礼申し上げます。

東北地方での初開催、また、日本ジオパークネットワークが活動を開始して10周年という節目の大会として、テーマを「あしたへ～日本のジオパーク！東北から発信！～」とし、次の10年先を見据え、ジオパークと地域の明日を皆で見出そうという想いがありました。本大会にて、明るい明日へ向かうべく「何か」を見つけることができましたでしょうか。当地にとりましては、1,000名を越える皆様にご参加いただき、活発な議論が連日新聞等で報道されたこともあり、ジオパークの熱さを域内の住民だけでなく、広く県民に知っていただくことができました。また、司会や発表を通して、地域の明日を担う高校生や中学生に活躍の場を頂戴いたしましたこと、小学生には歓迎メッセージへの返信を通して、多くのジオパークを紹介いただきましたこと、さらに、皆様の思いをお伝えいただきましたことなど、本大会を通して、得られた成果は大変大きいものと感じております。

公共交通や会場の広さなどにおいて、ご参加いただいた皆様にご不便をおかけしたこともあったかと思いますが、充実した思い出に残る大会、明るい明日へ向かうヒントを得られた大会であったなら幸いです。

結びに、ご参加いただきました日本ジオパークネットワークの皆様をはじめ、大会運営に多大なご協力を頂戴いたしました、東北ブロックの各ジオパーク推進協議会の皆様、ジオの恵み物産展へ出店くださった皆様、スタッフとしてご協力いただきました当地のガイドの皆様、様々なお力添えをいただきました全ての皆様に心よりお礼を申し上げますとともに、日本ジオパークのますますの発展をご祈念いたします。

寒風山とＪＲ男鹿線を走行する交流蓄電池電車ＡＣＣＵＭ

開 催 概 要

●大会名称	第８回日本ジオパーク全国大会2017男鹿半島・大潟大会
●テ ー マ	あしたへ～日本のジオパーク！東北から発信！～
●会　　期	平成29年10月25日（水）～27日（金）　※24日（火）はＪＧＮ各種会議 24日：ＪＧＮ事前相談会／ＪＧＮ運営会議ほか 25日：ＪＧＮ事務局長会議／開会セレモニー／基調講演／パネルディスカッション／ポスターセッション／ブース展示／ 大交流会ほか 26日：分科会／ポスターセッション／ブース展示／閉会セレモニー／エクスカーション 27日：エクスカーション
●主　　催	第８回日本ジオパーク全国大会男鹿半島・大潟大会実行委員会／一般財団法人自治総合センター （実 行 委 員 会）　男鹿市／大潟村／男鹿市教育委員会／大潟村教育委員会／男鹿市商工会／（一社）男鹿市観光協会／（株）ルーラル大潟／ＮＰＯ法人あきた地域資源ネットワーク／大潟村案内ボランティアの会／男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会 （アドバイザー）　秋田県
●共　　催	日本ジオパークネットワーク／日本ジオパーク委員会
●後　　援	秋田県／秋田県教育委員会／ＥＳＤ活動支援センター／日本ジオパークネットワーク東北ブロック／秋田県ジオパーク連絡協議会
●協　　力	磐梯山ジオパーク／八峰白神ジオパーク／ゆざわジオパーク／三陸ジオパーク／栗駒山麓ジオパーク／下北ジオパーク／鳥海山・飛島ジオパーク／蔵王ジオパーク構想地域／月山ジオパーク構想地域
●事 務 局	第８回日本ジオパーク全国大会男鹿半島・大潟大会実行委員会事務局（男鹿市教育委員会生涯学習課内） 〒010-0595　秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1
●会　　場	メイン会場－男鹿市民文化会館 秋田県男鹿市船川港船川字海岸通り2-14-2 その他会場－ホテルサンルーラル大潟（大交流会） 男鹿温泉郷（分科会） ※エクスカーションは男鹿半島・大潟、八峰白神、ゆざわ、鳥海山・飛島の各地

大会プログラム

10/24（火）大会前日

13:30－15:30	**ＪＧＮ事前相談会** 世界ジオパーク推薦希望地域【会場：男鹿市民文化会館リハーサル室】 日本ジオパーク認定希望地域【会場：男鹿市民文化会館大会議室】
13:30－18:30	**日本ジオパーク認定希望地域ポスター掲示**【会場：男鹿市民文化会館小ホール】
15:30－18:30	**ＪＧＮ運営会議**【会場：男鹿市民文化会館大会議室】
18:50－20:30	**プレ交流会**【会場：ホテル諸井】

10/25（水）大会１日目

9:00－12:00	**サイトを学ぼう！楽しもう**（有料ジオツアー）【見学地：安田海岸】
10:30－12:00	**ＪＧＮ事務局長会議**【会場：男鹿市民文化会館大会議室】
11:00－17:30	**ポスターセッション**【会場：男鹿市民文化会館小ホール】
11:00－17:30	**ブース展示**【会場：男鹿市民文化会館小ホール】
11:00－17:30	**ジオの恵み物産展**【会場：男鹿市民文化会館駐車場】
11:40－12:10	**小中高大生ポスターセッションコアタイム①** 【会場：男鹿市民文化会館小ホール】
13:30－14:30	**開会セレモニー**【会場：男鹿市民文化会館大ホール】 ・中学生による男鹿半島・大潟ジオパーク紹介 男鹿市立男鹿南中学校２年　和田 涼汰さん／目黒 美有さん 大潟村立大潟中学校１年　佐野 真尋さん／湊　鈴乃さん ・主催者、共催者あいさつ 全国大会実行委員会実行委員長（男鹿市長）　菅原 広二 日本ジオパークネットワーク理事長（糸魚川市長）　米田　徹 氏 日本ジオパーク委員会副委員長（東京大学教授）　中田 節也 氏 ・来賓あいさつ　秋田県知事　佐竹 敬久 氏 ・来賓メッセージ ジオパークによる地域活性化推進議員連盟 会長（衆議院議員） 石破　茂 氏 ・日本ジオパークネットワーク表彰式　表彰者　矢島 道子 氏
14:30－15:20	**基調講演**【会場：男鹿市民文化会館大ホール】 テーマ：ジオパークを楽しく料理しよう！― キッチン火山学 ― 講演者：秋田大学大学院教育学研究科教授　林 信太郎 氏
15:30－16:00	**一般ポスターセッションコアタイム** **小中高大生ポスターセッションコアタイム②**【会場：男鹿市民文化会館小ホール】
16:00－17:15	**パネルディスカッション**【会場：男鹿市民文化会館大ホール】 テーマ「ジオパークを教育に活用する視点と地域の明日への投資」 コーディネーター　林 信太郎 氏 パネリスト　川村 教一 氏／中田 節也 氏／山本 隆太 氏／成田 弘美 氏／小島 千晶 氏
18:30－20:30	**大交流会**【会場：ホテルサンルーラル大潟】

10/26（木）大会２日目

9:00－12:00	**分科会**【会場：ホテルサンルーラル大潟・男鹿温泉郷各ホテルほか】
9:00－15:30	**ポスターセッション**【会場：男鹿市民文化会館小ホール】
9:00－15:30	**ブース展示**【会場：男鹿市民文化会館小ホール】
13:45－15:00	**閉会セレモニー**【会場：男鹿市民文化会館大ホール】 ・分科会報告 分科会①　目代 邦康 氏（日本ジオサービス株式会社） 分科会②　関　博充 氏（三陸ジオパーク） 分科会③　日比野 剛 氏（白山手取川ジオパーク） 分科会④　蓮岡　真 氏（磐梯山ジオパーク） 分科会⑤　佐藤 英和 氏（栗駒山麓ジオパーク） 分科会⑥　福島 大輔 氏（ＮＰＯ法人桜島ミュージアム） 分科会⑦　大岩根 尚 氏（合同会社むすひ） 分科会⑧　岸本 誠二 氏（鳥海山・飛島ジオパーク） 分科会⑨　橋詰　潤 氏（日本ジオパーク委員会） 分科会⑩　鈴木 雅彦　（男鹿半島・大潟ジオパーク） ・大会宣言 全国大会実行委員会実行委員長（男鹿市長）　菅原 広二 ・次回開催地あいさつ 様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会長（様似町長）　坂下 一幸 氏 ・閉会あいさつ 全国大会実行委員会副実行委員長（大潟村長）　髙橋 浩人
15:30～	**エクスカーション（ジオツアー）出発**

10/27（金）大会３日目

終　日 | **エクスカーション（ジオツアー）**

10/28（土）大会 後日

終　日 | **オプショナルツアー（ゆざわジオパーク主催）**

大会前日　10月24日（火）

ＪＧＮ事前相談会

世界ジオパーク推薦希望に４地域、日本ジオパーク認定希望に10地域（内、傍聴３地域）が参加した。

日本ジオパークネットワーク事務局が進行のもと、現地審査員経験者等のオブザーバーを交え、ＧＧＮ推薦希望地域に対して、ＪＧＣ中田副委員長、ＪＧＮ申請希望地域に対してＵＧＧｐカウンシルの渡辺氏が説明を行った。机上説明後、ＪＧＮ新規認定希望地域のみポスター発表と質疑応答を行った。

総参加者数は78名であった。

ＪＧＮ運営会議

国際連携、生態学ワーキンググループからの報告、保全、ジオツーリズムワーキンググループからの提案の後、日本ジオパークネットワーク事務局から、審査基準検討会議及びＪＧＣ構成変更に関する情報共有が行われた。

その後、運営会議の設置目的と経過説明を踏まえ、運営会議とはそもそもどういう場であるのかについて、ＮＰＯ法人桜島ミュージアムの福島大輔氏をファシリテーターとしてワークショップを行った。

総参加者数は118名であった。

プレ交流会

諸会議参加者を中心に前日から集まった関係者、文部科学省ＯＤＡ事業によるアジア太平洋地域の各国から招聘した方々を交えてプレ交流会を開催した。熱いジオパーク談義に花を咲かせ、交流を深めた。

総参加者数は101名であった。

大会１日目　10月25日（水）

ＪＧＮ全地域事務局長会議

日本ジオパークネットワーク全61地域中、58地域からの参加を得て開催された。

日本ジオパーク委員会の構成変更及び審査基準検討会議等の経過報告が行われ、協議事項として、現地審査における申合せ（理事会提案事項）、役員改選、ＪＧＮ設立10周年記念事業、ジオツアー商品化、今後の予定に関することが議題として挙げられ、話し合われた。

総参加者数は75名であった。

開会セレモニー

中学生による男鹿半島・大潟ジオパーク紹介

紹介者：男鹿市立男鹿南中学校２年　和田 涼汰さん・目黒 美有さん
大潟村立大潟中学校２年　佐野 真尋さん・湊　鈴乃さん

主催者・共催者・来賓あいさつ、紹介

全国大会実行委員会実行委員長（男鹿市長）　菅原 広二
日本ジオパークネットワーク理事長（糸魚川市長）　米田　徹 氏
日本ジオパーク委員会副委員長（東京大学教授）　中田 節也 氏
秋　田　県　知　事　佐竹 敬久 氏

大会実行委員会
実行委員長（男鹿市長）菅原 広二

日本ジオパークネットワーク
理事長（糸魚川市長）米田　徹 氏

日本ジオパーク委員会
副委員長　中田 節也 氏

秋田県知事　佐竹 敬久 氏

日本ジオパークネットワーク表彰式

表彰者：矢島　道子 様

矢島様は2004年４月に設立されたＮＰＯ地質情報整備・活用機構、ＧＵＰＩの事務局としてジオパークの調査を進め、関係学会等との調整に奮闘されてきました。

2007年10月のジオパーク連絡協議会発起人会及び、同年12月の日本ジオパーク連絡協議会設立に尽力された事務局長岩松暉氏と共に事務局を務められました。

以降、2009年５月に日本ジオパークネットワークが設立されるまで、ウェブサイトやメーリングリストの開設・管理を行い、これらの活動は今日の日本ジオパークネットワークの礎となりました。

これらの顕著な貢献をたたえ、今回の受賞となりました。

受賞後のあいさつ

受賞後の記念撮影

基 調 講 演

テーマ：ジオパークを楽しく料理しよう！― キッチン火山学 ―

講演者：秋田大学大学院教育学研究科教授　林 信太郎 氏

パネルディスカッション

テーマ「ジオパークを教育に活用する視点と地域の明日への投資」

コーディネーター　林 信太郎 氏（秋田大学大学院教育学研究科教授）

パ ネ リ ス ト　川村 教一 氏（秋田大学教育文化学部教授）

中田 節也 氏（東京大学地震研究所教授・日本ジオパーク委員会副委員長）

山本 隆太 氏（静岡大学教職センター学術研究員・教育ワーキンググループリーダー）

成田 弘美 氏（青森県むつ市立苫生小学校教諭）

小島 千晶 氏（青森県むつ市立苫生小学校教諭）

10年後へ向けたKey Words：
「教育というあしたへの投資」

小中高大生ポスターセッション

今大会は日本ジオパークネットワークが活動を開始して10周年の節目の大会であり、テーマを「あしたへ」とした。そのため、ジオパークのあすを創る小中高大学生を対象としたポスターセッションを実施した。コアタイムを２度設定し、発表機会を増やすことで、多くの方々と議論できるようにした。

コアタイムには多くの方々が訪れ、生徒たちとディスカッションを交わす様子が見られた。なお、エントリーは全国から13件であった。

また、ディスカッションを通して、学校種別に優秀賞を選定した。本セッションの優秀賞選定条件は以下の通りである。

○２回のコアタイムの内、１回以上は各自のポスターの前で発表すること。

本セッションの優秀賞選定視点は以下の通りである。

・実地に即して調査したものであるか。

・子どもたちが主体的に調査したものであるか。

・あしたにつながる研究であるか。

優秀賞受賞校には、大会実行委員会より、賞状のほか、男鹿半島・大潟ジオパークオリジナル図書カード4,000円分と、オリジナルフレーム切手発表者人数分を贈呈した。

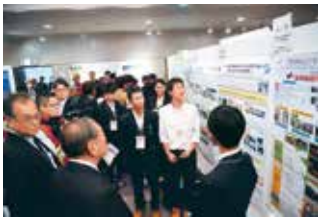
その他参加校には参加賞として、男鹿半島・オリジナルフレーム切手１枚を贈呈した。

小中高大生ポスター優秀賞受賞

部　門	No.	テ　ー　マ	キーワード	発表者所属団体
小学生の部	1-05	新穂小学校ジオ物語	調査研究	佐渡市立新穂小学校
中学生の部	1-01	アポイの魅力	魅力発信	様似町立様似中学校
高校生の部	1-07	白山手取川ジオパークを利用した学習活動の取り組み	魅力発信	石川県立鶴来高等学校
大学生の部	1-06	教育を学ぶ大学生×地域の小学生～学生と行うジオパーク教育の試み～	調査研究・魅力発信	金沢星稜大学人間科学部子ども学科池上フィールド

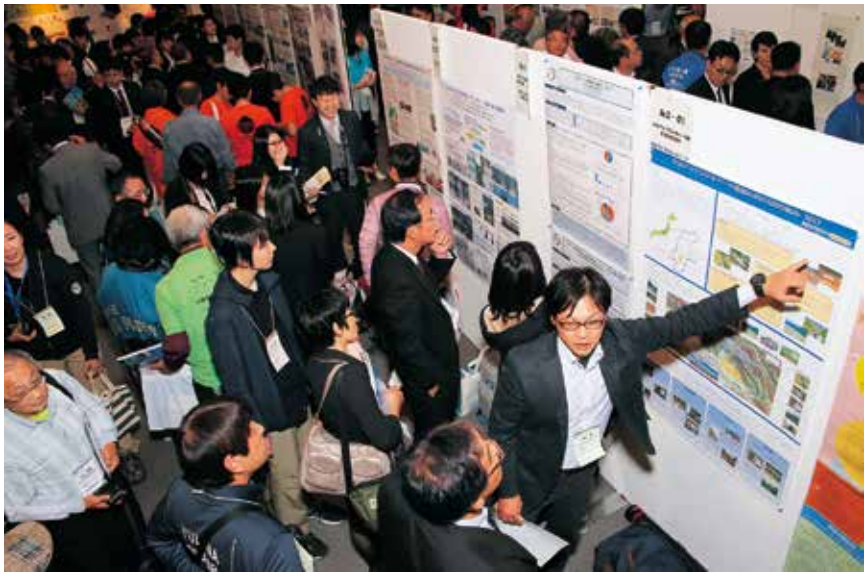
小中高大生ポスターエントリー一覧

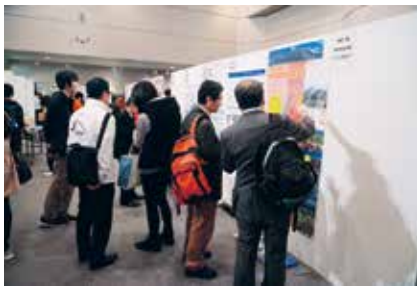
No.	テ　ー　マ	キーワード	発表者所属団体	発表者名
1-01	アポイの魅力	魅力発信	様似町立様似中学校	大澤奏也、山崎寧々、清水理湖、金子優空 西川健生、港志　童
1-02	ジオパーク研究第１報　～八峰白神～	調査研究 魅力発信	秋田県立能代高等学校 科学部	秋田県立能代高等学校　科学部ジオ班
1-03	1986年伊豆大島噴火後の住民の生活を対象とした災害エスノグラフィー作成	調査研究	秋田大学 教育文化学部	石水英梨花
1-04	大佐渡地域及び真野地域に見られる化石の比較と古環境の違い	調査研究	佐渡市立真野中学校 （新潟県）	瀧川浩気、飯森翔太郎
1-05	新穂小学校ジオ物語	調査研究	佐渡市立新穂小学校 （新潟県）	榎　彩華、末武佑理、濱辺恋那、引野結愛
1-06	教育を学ぶ大学生×地域の小学生 ～学生と行うジオパーク教育の試み～	調査研究 魅力発信	金沢星稜大学人間科学部子ども学科池上フィールド	森田真菜美、広島麻鈴、安達歩美 松浦真奈美、米林梨奈、樅山涼香 東泉水、山本雄一、直川歩未、池上　奨
1-07	白山手取川ジオパークを利用した学習活動の取り組み	魅力発信	石川県立鶴来高等学校	山崎小春、宮下沙弥、森菜々瀬
1-08	白山麓地域の観光客を増やすための取り組み ～全国に向けて魅力を発信～	魅力発信	石川県立鶴来高等学校	松嶋幸之介、山崎　誉、横山駿亮
1-09	中学校発信！　那須烏山ジオパーク構想	調査研究 魅力発信	栃木県那須烏山市立南那須中学校特設科学部	古屋輝弥、相吉澤壮永、上ノ内千智
1-10	女子大生視点での男鹿のコミュニティデザイン ～人と大地の魅力発見と価値創造のために～	調査研究 魅力発信	跡見学園女子大学	石神未奈子、斯波リリエ、長濱美帆 森崎夏好、會田真優、石塚千鶴
1-11	「浜松をジオパークに！」 ～総合学科の総力を結集した地域貢献の取り組み	－	静岡県立浜松大平台高等学校	福山めぐみ、熊谷莉乃、池田亜弥
1-12	沼津近郊の海底映像・マリンスノー・海中音の観察	調査研究 魅力発信	沼津高専 特別同好会 「知財のTKY（寺子屋）」深海プロジェクト	中村秀人、佐藤智晴、稲葉　凪、貝嶋志斗 望月万里衣、鈴木涼太、鈴木　橙、川嶋玲志 園田歩美、海野敏基、廣瀬正誠
1-13	日本におけるジオパーク教育の現状と課題	調査研究	神戸大学附属中等教育学校	田畑帆奈美、木村　樹、瀧本家康



一般ポスターセッション

一般ポスターセッションには総計で60のエントリーがあった。
コアタイムには活発な議論が進められ、会場は満杯の状態で熱気がみなぎっていた。





一般の部（ジオパークを目指す取り組み）

No.	テ　ー　マ	発表者所属団体	発 表 者 名
2-01	中央アルプスのジオパーク化への取り組み 2017	中央アルプスジオパーク構想推進協議会	小松　裕
2-02	飛騨山脈ジオパーク構想の取り組みについて	飛騨山脈ジオパーク推進協議会 高山市環境政策推進課	早川政範、中西伸一、松田俊彦、直井幹夫 谷口雅人、山郷三昭
2-03	讃岐ジオパーク構想推進のためのアウトリーチ活動	香川大学工学部	長谷川修一、鶴田聖子
2-04	認定見送りを受けてからの活動について　土佐清水ジオパーク構想	土佐清水ジオパーク推進協議会	佐藤久晃、今井　悟、稲田　香、酒井　満
2-05	萩ジオパーク構想の取組み	萩ジオパーク構想推進協議会	福島康行、伊藤靖子、白井孝明
2-06	ジオパーク統合への道　第3報	霧島ジオパーク推進連絡協議会 桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会	坂之上浩幸、山本倫代

一般の部（通常発表）

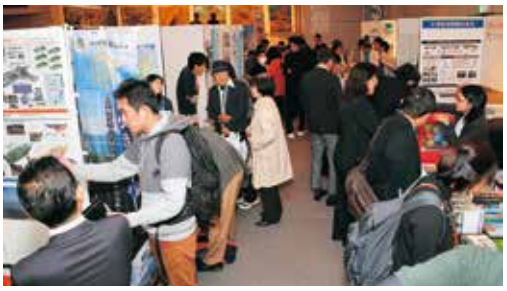
No.	テ　ー　マ	発表者所属団体	発 表 者 名
3-01	地域の地層と岩石図鑑を活用した授業実践	白滝ジオパーク	山中大志、佐野恭平、熊谷　誠、横山　光
3-02	TV電話を活用したネットワーク活動における地域学習プログラムの実施について	三笠ジオパーク推進協議会・北海道地図株式会社	下村　圭、上野莉紗、小林毅一、本宮康年 田中祐未、関　洋祐
3-03	位置情報を用いたSNSログデータのジオパークへの活用	十勝岳ジオパーク推進協議会	田中誠也
3-04	「ジオ」と「暮らし」をつなぐために　－ジオパーク・ストーリーカード－	北海道洞爺湖町	北海道洞爺湖町役場ジオパーク推進課　中谷麻美
3-05	今年で10年を迎える火山マイスター	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会事務局	畑吉　晃
3-06	アイヌ語地名を活用したジオサイト解説の試み～ふるさとジオ塾での取組みから～	アポイ岳ジオパーク推進協議会	加藤聡美
3-07	下北ジオパークにおけるジオツアーへの取り組み	下北ジオパーク推進協議会	小池拓矢、石川　智
3-08	大地の遺産としての滝ノ頭湧泉と長根堰	秋田地学教育学会	栗山知士
3-09	ゆざわジオパークの熱水変質鉱物を利用したマグマ～熱水系システムに関する教材開発	秋田大学大学院国際資源学研究科 資源地球科学専攻	越後拓也
3-10	ゆざわジオパークにおける普及活動と経済効果への期待	湯沢市ジオパーク推進協議会	沼倉　誠、中三川洸太、佐藤　誠、金野寛子 池田尚文、山崎由貴子、加賀美典明
3-11	三陸ジオパークフォーラムの開催をきっかけとしたジオパーク活動の広がり	三陸ジオパーク推進協議会	熊谷　誠
3-12	第6回東北ジオパークフォーラムin栗駒山麓における分科会兼ジオツアーの構想と実施プロセスについて	栗駒山麓ジオパーク推進協議会	中川理絵、長尾　隼、佐藤　充、原田拓也 小林美月
3-13	ジオパークエリアを超えて －磐梯山ジオパークを源とする「安積疏水」をたどるジオツアー－	*1 磐梯山噴火記念館　*2 福島県立博物館 *3 磐梯山ジオパーク協議会	佐藤　公*1、竹谷陽二郎*2、蓮岡　真*3
3-14	サザエファームを利用した新潟県海洋高等学校の海を活かした取組み	糸魚川ジオパーク協議会	猪又卓也、内山俊洋、小河原孝彦、茨木洋介 竹之内耕
3-15	苗場山麓ジオパークガイドの取り組み	苗場山麓ジオパーク振興協議会	仲野浩平
3-16	地域住民とともに進めるジオパーク活動　－佐渡ジオパーク 沢崎集落の例－	佐渡ジオパーク推進協議会	市橋弥生
3-17	立山黒部ジオパークの拠点施設が展開するジオパーク活動	一般社団法人立山黒部ジオパーク協会、 黒部市教育委員会生涯学習課	山岡勇太、王生　透
3-18	地震学習会「ジオパーク活動で使える地震学Ⅰ」の実施報告と参加者アンケート	日本地震学会ジオパーク支援委員会	平松良浩、松原　誠、中川和之
3-19	留学生を対象とした持続可能な地域発展教育における白山手取川ジオパークの活用	白山手取川ジオパーク	アイーダ・ママドワ、山口　隆
3-20	白山手取川ジオパークの地域に根付いた教育活動と学習状況アンケート結果	白山手取川ジオパーク	日比野剛、富田揚子
3-21	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークにおける地域の子どもを対象としたイベント　2017夏	*1 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 *2 白山手取川ジオパーク推進協議会 *3 NPO法人白山しらみね自然学校	町　澄秋*1、山口　隆 *1,*2,*3
3-22	「邪魔者」から「資源」に　～雪の利活用～	*1 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 *2 勝山市雪氷熱エネルギー利用促進協議会	櫻井光雄*1,*2
3-23	茨城県北ジオパークにおけるガイド（インタープリター）の学術的正当性を保証する仕組み	*1 茨城県北ジオパーク推進協議会　事務局 *2 茨城大学	西槇　強*1、小荒井衛*2、安藤寿男*2 小野寺淳*2、小野規宏*2、天野一男*2
3-24	筑波山地域ジオパーク部会での取り組み	筑波山地域ジオパーク推進協議会	教育・学術部会員、市民活動部会員 地域振興部会員
3-25	南アルプスジオパーク　小学校ジオ・エコツアーと大鹿村ジオツアーの取り組み	*1 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会、*2 大鹿村中央構造線博物館	小澤恵理*1、宮崎裕子*2
3-26	浅間山北麓地域におけるジオパークを核とした地域活性化に向けて	浅間山ジオパーク推進協議会	宮崎　貴、荒井西夏、坂口　豪
3-27	オリジナルグッズを使ったジオパークの普及、教育活動	ジオパーク下仁田協議会	片山美雪、岩井　実、関谷友彦
3-28	ジオパークになって6年、認知されてきたジオパーク秩父、たくさんの広がり	秩父まるごとジオパーク推進協議会	福原隆夫、吉田健一
3-29	小学生を対象とした夏休みの自由研究ツアーのアンケート集計結果について －銚子ジオパークの例－	銚子ジオパーク推進協議会	山田雅仁、岩本直哉、髙根　咲、小川正俊
3-30	ESD推進ネットワークとESD活動支援センター（全国・地方）のご紹介 ＊ESD=Educationfor Sustainable Development 持続可能な開発のための教育	ESD活動支援センター	柴尾智子
3-31	はじめまして！　伊豆大島ジオガイドの会です！	伊豆大島ジオガイドの会	田附克弘、西谷香奈、臼井里佳
3-32	箱根ジオパーク「オリジナル」ジオツアーの実現に向けて ～民・官・学の連携を深めて～	箱根ジオパーク推進協議会　事務局	村山一郎、片野　忍、奥津悠介
3-33	箱根ジオパーク　新規編入した南足柄市の取組み ～小学生向けジオ講座を通じた地域活性化～	南足柄ジオガイドの会 （箱根ジオパーク推進協議会）	一寸木肇、植田勇次、北邨順誠、深瀬誠二
3-34	箱根火山の立体模型をつくろう	神奈川県温泉地学研究所 （箱根ジオパーク推進協議会）	道家涼介
3-35	ジオガシキッチン教室	ジオガシ旅行団	鈴木美智子
3-36	ジオツーリズムとさまざまな連携～第7回全国大会・GGN世界審査を終えて～	伊豆半島ジオパーク推進協議会	内藤美奈子
3-37	夏目漱石と阿蘇ジオパーク	阿蘇ジオパークガイド協会	山本俊夫
3-38	ジオパークイベントをきっかけにした地域食材の魅力発信	南紀熊野ジオパーク推進協議会 ジオ興し東エリアチーム	野口和典
3-39	兵庫県立人と自然の博物館「石ころクラブ」による山陰海岸ジオパーク立体地質模型の作成	山陰海岸ジオパーク／兵庫県立大学	先山　徹
3-40	自立できるガイド組織の持続可能な運営とマネジメントの成功事例 ～“人と人・地域と地域”を繋ぐ限りない我々の挑戦～	山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク NPO玄武洞ガイドクラブ	木下道則（大会議室で口頭発表：コアタイム）
3-41	豊岡市におけるビッグデータを活用した観光戦略	豊岡市役所	波内祐美子
3-42	山陰海岸ジオパーク関連商品開発プロジェクト	鳥取市役所	平尾英輝
3-43	平成28-29年度島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンターの取り組み	島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター	辻本　彰、入月俊明、島根大学くにびきジオパークプロジェクトセンター構成員
3-44	「ジオツーリズムブランド」の確立に向けたジオツアー商品化WGの取り組み	*1 Mine秋吉台ジオパーク推進協議会事務局 *2 徳山大学	小原北士*1、山縣智子*1、柚洞一央*2
3-45	室戸ユネスコ世界ジオパークにおける協働と活動	室戸ジオパーク推進協議会	中村有吾
3-46	私たちのこれから…地球（むろと）で遊ぶ～10のコース～	室戸市観光ガイドの会	堺喜久美・千頭利智
3-47	音楽を媒体に、地域や人を結び交流を生む	室戸市観光ジオパーク推進課	地域おこし協力隊　小笠原優
3-48	島原半島ジオパーク・雲仙市小浜温泉における温泉エネルギー活用の取り組み	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科	馬越孝道、渡辺貴史、竹下貴之、佐々木裕
3-49	五島列島ジオパーク構想	五島列島ジオパーク推進協議会	松田芳充
3-50	おおいた豊後大野ジオパーク　サイトの保全活動（環境整備）について	おおいた豊後大野ジオパーク	高野弘之
3-51	おおいた姫島ジオパークにおける小・中学生のジオパーク学習	おおいた姫島ジオパーク推進協議会	おおいた姫島ジオパーク推進協議会事務局
3-52	2016熊本地震からの復興に向けた阿蘇ユネスコグローバルジオパークの活動	阿蘇ジオパーク推進協議会	池辺伸一郎
3-53	副読本を活用した学校教育への取組	桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会	古殿紀章
3-54	霧島ジオパークユニバーサルデザインフォーラムの活動	霧島ジオパーク推進連絡協議会	徳丸勇太

ブース展示

ブース展示は総計で22の申込があった（協賛による無償提供も含む）。

ブース出展団体一覧

No.	ブース展示団体
1	豊川油田の歴史を伝える会
2	ジオガシ旅行団
3	南紀熊野ジオパーク推進協議会
4	佐渡ジオパーク推進協議会
5	おおいた豊後大野ジオパーク
6	銚子ジオパーク
7	国立研究開発法人　防災科学技術研究所
8	伊豆半島ジオパーク推進協議会
9	苗場山麓ジオパーク
10	山陰海岸ジオパーク推進協議会
11	国引きジオパーク推進協議会
12	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会
13	㈱大潟共生自然エネルギー
14	室戸ジオパーク推進協議会
15	栗駒山麓ジオパーク推進協議会
16	阿蘇ジオパーク推進協議会
17	八峰白神ジオパーク推進協議会
18	湯沢市ジオパーク推進協議会
19	鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会
20	男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会
21	北海道地図株式会社
22	男鹿市内郵便局



ジオの恵み物産展

メイン会場である男鹿市民文化会館駐車場において、ジオの恵み物産展を開催した。
男鹿半島・大潟ジオパークだけでなく、秋田県内のジオパーク関係地域からも出店があった。
当物産展のみで使用できるお買い物券を配布し、大地の恵みをご堪能いただいた。

ジオの恵み物産展出展事業者一覧

No.	事　業　所　名	事業所所在地
1	有限会社 秋田観光	男鹿市
2	児玉冷菓	男鹿市
3	杉重冷菓	男鹿市
4	男鹿海鮮料理ほたる	男鹿市
5	有限会社 進藤冷菓	男鹿市
6	たかはし	男鹿市
7	株式会社 男鹿なび	男鹿市
8	ゴンタロー製菓 株式会社	男鹿市
9	武田商店	男鹿市
10	鈴木金栄堂	男鹿市
11	男鹿地域振興公社 （夕陽温泉WAO）	男鹿市
12	株式会社男鹿水族館	男鹿市
13	株式会社大潟村カントリーエレベーター公社	大潟村
14	野の花シフォン	大潟村
15	大潟村農業協同組合	大潟村
16	株式会社農産物加工所　潟工房	大潟村
17	自家焙煎珈琲専門店　アメヤ珈琲	大潟村
18	産直センター潟の店	大潟村
19	明通り　チーズ工房	羽後町
20	レストラン結心	羽後町
21	有限会社 稲庭絹女うどん	湯沢市
22	我流慕	湯沢市
23	有限会社 三浦商店　麺'Sクラブ	横手市

大交流会

大潟村のホテルサンルーラル大潟を会場に、770名参加のもと行われた。

大会当日は稲の収穫直後の時期であり、男鹿半島・大潟地域を代表する大地の恵みである「あきたこまち」の新米やハタハタがふるまわれたほか、ババヘラアイスなど列を作る人気振りであった。

また､秋田を代表するお酒である日本酒を中心に､ご参加いただいた国内各ジオパークから地酒の提供を募った「地酒バー」では30本以上の地酒が集まり、利き酒に盛り上がりを見せた。

交流会のオープニングは男鹿市の国重要無形民俗文化財「男鹿のナマハゲ」をモチーフとした「男鹿っ鼓」によるナマハゲ太鼓が飾り、最後は、次回開催地である北海道アポイ岳ユネスコ世界ジオパークのあいさつによって締められた。

ホテルサンルーラル大潟作成の歓迎割り箸

高橋章子氏絵画展

高橋氏は男鹿半島・大潟ジオパークを代表するジオサイトである「鵜ノ崎海岸」を描く秋田市在住の画家である。今絵画展では、新作である鵜ノ崎海岸の「小豆岩」も展示された。

高橋章子氏画歴

秋田県上小阿仁村出身
2008年 秋田県美術展覧会　初出品　初入選
2009年 第55回一陽展 初出品　特待賞２点
2014年 第29回秋田国民文化祭　奨励賞
2016年 第62回一陽展　大阪巡回展

参加者⇔市村小学生との特別郵便

当日の大会にご参加いただいた皆様に、市村小学４年生～６年生に直筆の歓迎メッセージをお渡しした。

そのメッセージは、用紙の右側を切り取れるようにして、受け取った方からに返信していただき､該当の小学生にお返しするという試みであった。

本郵便のコンセプトは以下の２つである。参加された全国の皆様に当地からの歓迎気持ちを知っていただきたき、当ジオパークの魅力を知っていただきたいということ、また、市村の小学生に全国のジオパーク関係者の熱のこもった返信が渡ることで、ジオパーク活動の良さだけでなく、他地域とのつながりを実際に感じてもらいたいということであった。

結果として、ご参加いただいた皆様からはご好評をいただき、返信を受け取った小学生だけでなく、その両親、祖父母等からの反響も大きかった。このメッセージの返却は、全国大会終了後の余韻の一つともなった。

サイトを学ぼう！楽しもう！

ＮＰＯ法人あきた地域資源ネットワークが企画した有料のジオツアーが行われた。25日午前中の時間を利用して安田海岸ジオサイトを見学。41名が参加し、事前に男鹿半島・大潟の魅力を知っていただく機会となった。

大会２日目　10月26日（木）

分　科　会

各種会場にて、10分科会を開催した（詳細はＰ15～Ｐ35参照）

閉会セレモニー

分科会報告

各分科会で議論された内容を企画運営担当者が報告した。

分科会①　目代　邦康 氏（日本ジオサービス株式会社）
分科会②　関　　博充 氏（三陸ジオパーク）
分科会③　日比野　剛 氏（白山手取川ジオパーク）
分科会④　蓮岡　　真 氏（磐梯山ジオパーク）
分科会⑤　佐藤　英和 氏（栗駒山麓ジオパーク）
分科会⑥　福島　大輔 氏（ＮＰＯ法人桜島ミュージアム）
分科会⑦　大岩根　尚 氏（合同会社むすひ）
分科会⑧　岸本　誠二 氏（鳥海山・飛島ジオパーク）
分科会⑨　橋詰　　潤 氏（日本ジオパーク委員会）
分科会⑩　鈴木　雅彦　　（男鹿半島・大潟ジオパーク）

大 会 宣 言

今大会の大会宣言全文はＰ41に掲載している。宣言文は、日本ジオパークネットワーク活動開始10周年を踏まえ、これから先の10年に必要だと考えるキーワードをコンセプトに、基調講演、パネルディスカッション、各分科会の議論をもとに集約した。10年後、2027年の全国大会において、私たちの思いが継承され、より発展的な活動が推進されていること願う。そのベースを現在担っている私たちの役割は大きい。

宣言者：全国大会実行委員会実行委員長（男鹿市長）　菅原　広二

次回開催地あいさつ

2018年の第９回日本ジオパーク全国大会開催地は北海道ブロックへと移行し、アポイ岳ユネスコ世界ジオパークを中心に開催される。

アポイ岳ジオパークの紹介とともに、様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会長（様似町長）坂下一幸氏を筆頭として、北海道ブロックの多くの方が登壇し、大会への参加を呼び掛けた。

閉会あいさつ

大会の閉会を宣言するとともに、参加いただいた皆様、大会に関わった皆様にお礼を述べて、大会は盛会裏に閉会した。

全国大会実行委員会副実行委員長（大潟村長）　髙橋　浩人

エクスカーション（ジオツアー）開始

ツアーの詳細はＰ36～Ｐ40参照

分科会概要

分科会❶ トップが考えるジオパークと地域振興のあした

時　間	9：00 ～ 12：00	会　場	ホテルサンルーラル大潟【菜の花】
Key word	首長・会長	企画運営	日本ジオサービス株式会社

分科会❷ 海の崖からサイトの保全を考える【8：30 セイコーグランドホテル出発】

時　間	8：30 ～ 12：30	会　場	安田海岸・男鹿市民文化会館【大会議室】
Key word	保全	企画運営	保全WG with 三陸ジオパーク

分科会❸ ジオパークにおける持続可能な社会のための教育 ―未来を担うこどもたちを育てるために―

時　間	9：00 ～ 12：00	会　場	セイコーグランドホテル【花水木】
Key word	教育	企画運営	教育WG with ゆざわジオパーク

分科会❹ ガイド技術を考える ―インタープリテーションの視点から―

時　間	9：00 ～ 12：00	会　場	男鹿観光ホテル【百萬】
Key word	ガイドスキル	企画運営	ガイドWG with 磐梯山ジオパーク

分科会❺ ジオガイドの人材育成と団体運用について

時　間	9：00 ～ 12：00	会　場	セイコーグランドホテル【浜木綿（はまゆう）】
Key word	ガイド講習・運用	企画運営	ガイドWG with 栗駒山麓ジオパーク

分科会❻ 新しいジオツアーブランドのコンセプトをつくろう！

時　間	9：00 ～ 12：00	会　場	男鹿観光ホテル【シャガール】
Key word	ツーリズム	企画運営	ジオツアー商品化WG with 八峰白神ジオパーク

分科会❼ 国際連携と相互発展 ―A geopark takes you to a new world!!―

時　間	9：00 ～ 12：00	会　場	別邸つばき
Key word	国際連携	企画運営	国際連携WG with 下北ジオパーク

分科会❽ 学術研究者とジオパーク専門員がつくるジオストーリー

時　間	9：00 ～ 12：00	会　場	萬盛閣
Key word	ジオストーリー・専門員	企画運営	林信太郎 with 鳥海山・飛島ジオパーク

分科会❾ 人の暮らしとジオを考える分科会 ―黒曜石で人と地球の活動をつなぐ―

※本分科会は一般公開分科会

時　間	9：00 ～ 12：00	会　場	男鹿温泉交流会館五風
Key word	人・歴史	企画運営	橋詰潤 with 男鹿半島・大潟ジオパーク

分科会❿ ジオサイトを理科教育に活かす実践例を知る【8：30 ホテルサンルーラル大潟出発】

時　間	8：30 ～ 12：10	会　場	ジオパーク学習センター・寒風山
Key word	理科教育支援	企画運営	川村教一 with 男鹿半島・大潟ジオパーク

分科会❶ トップが考えるジオパークと地域振興のあした

参加者数 65名

企画運営

目代 邦康（日本ジオサービス株式会社）

概要

ジオパークの運営母体のトップが、ジオパークプログラムの本質を深く理解し、地域の発展につながる施策を実施し、よりよいジオパーク活動をすすめていく学びの場とする。

内容

09：00～09：05　趣旨説明　目代 邦康（日本ジオサービス株式会社）
09：05～09：50　熊谷 嘉隆（国際教養大学）「国立公園における観光推進―ジオパークとの接続性」
09：50～10：35　渡辺 真人（産業技術総合研究所）「ジオパークをあらためて基本にもどって考える」
10：45～11：30　グループワーク　ジオパークの活動を始めてから現在までの現状分析
11：30～12：00　まとめの共有と基調講演者のコメント

地域資源の保全と活用に関して本質的な理解を深めるため、これまで国内外の国立公園をふくむ自然保護区について研究をすすめてきた国際教養大学教授熊谷嘉隆博士に「国立公園における観光推進―ジオパークとの接続性」として講演をいただいた（写真１）。続いて産業技術総合研究所地質調査総合センター地球変動史研究グループ長渡辺真人博士に「ジオパークをあらためて基本にもどって考える」として講演をいただいた。熊谷博士の講演では、国立公園の歴史とそこに求められている役割について振り返り、世界的な流れとして、健康増進を求める場所であり、地域コミュニティーの役割が増していることが紹介された。国立公園での活用時における留意点として、資源保全、観光行動における体験の質、ブランディング、ガイドの養成、国立公園周辺地域の文化や他の資源との接続性、インバウンド対応の各点について、実例を交えて解説があった。渡辺博士の講演では、ユネスコ世界ジオパークの理念と、現在の動向について説明があった。これまでの世界のジオパークの審査の経験に基づいての、東南アジアやヨーロッパのジオパークの事例紹介があり、それらを比較検討することで、日本のジオパークの特性について解説があった。そして、日本のジオパーク活動のこれまでを総括し、その実績や今後改良すべき点について解説があった。

２件の講演を踏まえ、参加者は７つのグループに分かれ、「ジオパークの活動を始めてから現在までの現状分析」ということでグループワークを行った。その内容は、以下に示す項目毎に整理した（写真２、３）。その項目とは、地質遺産、地域学習、環境教育、防災教育、持続可能な観光、地域住民の主体的な活動である。地域学習では、ジオパーク間での交流事業や、副読本の作成、人材育成の例など、多くの実践が報告された。地質遺産の保全では、ジオサイトを町で公有地化した事例や、地域でジオパーク活動によって露頭の価値を知り、それが保全活動につながった事例などの報告があった。そのほか、ユニバーサルデザインを取り入れたツアーの実施とそれの全国展開の事例についても紹介があり、各地で新しい取り組みが行われていることが共有された。

各地の事例を共有した後に、これらの10年で日本ジオパークが伸ばしていかなければならない点、力をいれなければならない点について、全体で討論をおこなった。そこでは、日本全体の中で「ジオパーク」の知名度の向上をはかることや、ＳＤＧｓを念頭においた活動を進めていくことが必要との意見がだされた。トップとしての関心事項は再認定審査であるという意見もあった。

最後に、10年後に向けたキーワードについて議論をし、そこでの議論をまとめて、「ビジョンと戦略」をあげた。

まとめ

日本のジオパーク活動が始まってから約10年が経過し、世界ジオパークがユネスコのプログラムとなった現在は、これまでの活動を総括した上で、今後の10年の戦略をたてる時期にきているといえる。そうしたタイミングで、それぞれのジオパークの運営母体のトップの人間が、ジオパークの基

本とは何か、また世界的に行われている地域の自然遺産の保護と活用の事例について学び、これからのジオパークの将来像について語り合う場所が設けられたことが、本セッションの成果であるといえる。

企画運営者の総括・感想

本セッションは、これまで、首長セッションとして実施されてきた分科会を、トップセッションという形に改めて実施したものである。その参加者は、事務局長など必ずしも首長に限らず、運営母体の中心に位置している人の参加を可とした。こうしたことで、参加者には、運営母体における本質的なトップとしての立場を求めることになった。そのためもあり、討論の時間は十分ではなかったが、それでもグループワークでは深い議論が行われていた。

日本のジオパーク活動の質の向上のためには、各ジオパークの活動の質の向上が必要である。各ジオパークのトップは国際的な視点を持ち、今まで以上に、主体的に活動していくことが必要であろう。ジオパークの運営母体におけるトップの果たす役割について、今後議論を深めると同時に、本セッションの開催意義について検討していくべきと思われる。

10年後に向けたKey Words「ビジョンと戦略」

写真１　熊谷教授による講演

写真２　グループワークの様子

写真３　グループワークの様子

文　責：目代 邦康（日本ジオサービス株式会社）

分科会❷ 海の崖からサイトの保全を考える

参加者数 45名

企画運営

保全ワーキンググループ／三陸ジオパーク
竹之内 耕（保全ワーキンググループ・糸魚川ユネスコ世界ジオパーク）
関　博充（三陸ジオパーク）

概要

ジオパークの目的は、ジオパーク資源を保全しながらの地域発展であるので、ジオパーク活動の根幹が保全と言える。しかしながら、ジオパーク資源は、資源の種類や状態、保全状況、保全に関わる人々などが地域によって異なるため、ジオパーク資源に対する保全の考えや方法が、地域によってそれぞれ異なる場合がある。保全に関わる人達が、地域の状況に即して、最適な保全方法を考えていく必要がある。

そこで、保全ワーキンググループでは、様々なケースを知っておくことがまず不可欠であると考え、第７回の全国大会伊豆半島大会では静岡県三島市楽寿園における三島溶岩の湧水の復元活動、引き続いて本大会では、海食崖など沿岸部にあるサイトから保全を考えることとした。沿岸部のサイトを有するジオパークは多く、それぞれいろいろな課題を抱えているに違いない。

今回は、男鹿半島・大潟ジオパークの安田海岸ジオサイトでの現地見学会、３地域で抱えている保全に関する事例紹介を通じ、実際に起きている保全に関する問題や課題をできるだけ多く共有し、自らの地域の問題解決につなげるヒントを得ることを目的とした。

内容

１．現地見学

ガイド　白石 建雄（秋田大学名誉教授）、澤木 博之（男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会）

08：00	ホテル前集合、受付
08：30	出　発
09：00～10：30	安田海岸ジオサイトの見学（地層の崩落、地質調査による岩石採収痕跡、海岸漂着ゴミなど現在課題になっている箇所を見学）

２．事例発表・グループ討議（男鹿市文化会館２階大会議室）

進行　竹之内 耕（糸魚川ユネスコ世界ジオパーク）、関　博充（三陸ジオパーク）

11：00～11：10	事例紹介①　安藤 和也（鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館）「海岸砂丘の保全のあり方～観光とジオパークとしての保全～」
11：10～11：20	事例紹介②　岩本 直哉（銚子ジオパーク）「銚子ジオパーク屏風ヶ浦を例に土地を守るか・景観を守るか？」
11：20～11：30	事例紹介③　日沼 久人（八峰白神ジオパーク）「ブラックサンドビーチはジオサイトか」
11：30～12：10	グループ討議（見学地含め紹介された４事例について、解決方法や解決に向けた課題の洗い出し、また、10年後の保全活動を考える上で必要なキーワードなどを協議。）
12：10～12：25	共有（グループ毎に発表）
12：25～12：30	まとめ（竹之内 耕保全ワーキンググループリーダー）
12：30	終了・解散

まとめ

参加者は複数の事例に基づき、保全活動を進めるために必要な視点を下記のとおり共有した。

①自然現象による侵食などからジオサイトを保全するには、ジオサイトとして何に価値を見出し、その価値をだれが、どのように、いつまで保全するのか、を検討する必要があること、②保全活動に

よって生じるメリット、デメリットを把握すること、③市民と協議の上、活動を進める必要があるが、その将来の担い手として、地域の子どもたちを参画させることが重要であること。

この分科会では、男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会の皆様に大変お世話になった。厚く御礼申し上げる。

企画運営者の総括・感想

今回、安田海岸ジオサイトにおいて、波浪等による崖面の侵食、消波ブロックの設置に伴う新たな侵食、地質研究者等によるサンプリング、海から流されてくる木やゴミの堆積、落書き、などを地元ガイドの話を伺いながら見学することができたのは、各参加者に大きなインパクトを残したと思われる。また、３つの事例紹介により、現在進行形の課題を共有できたことも、短時間でのグループ討議にも関わらず、密度の濃いアイデア出しや意見交換につながった。

経験も立場も異なる参加者が集まる全国大会の分科会では、こうした現地見学会を含む分科会の形式は、同じ経験に基づく共通認識を容易に得られるため、その後の討議、共有を進める上で非常に有益であった。準備する事務局やガイド団体の多大なるご協力の上に実現できるものであるが、今後もこの形式での分科会を実施し、多くの経験が参加者に蓄積されることで、10年後の保全活動が実りあるものになるものと期待する。

10年後に向けたKey Words「知恵を出し合い、人と自然、人と人が折り合うこと」

文　責：関　　博充（三陸ジオパーク）

分科会❸ ジオパークにおける持続可能な社会のための教育

参加者数 68名

企画運営

教育ワーキンググループ／ゆざわジオパーク
山本 隆太（静岡大学）／日比野 剛（白山手取川ジオパーク）／山﨑 由貴子（ゆざわジオパーク）
※文部科学省平成29年度日本／ユネスコパートナーシップ事業の一環で開催

概要

ジオパークは地球と地域社会が共生できる持続可能な発展を目指しており、ジオパークにおける教育活動はそれらの理念を伝えると共に、地域全体で持続可能な開発について地球規模で考えていくことができる人づくり、町づくりを推進することが目的である。しかし、ジオパークで教育に関わる人たちも、持続可能な開発とは何か、そのための教育とはどのようなものかについては試行錯誤している状況である。そこで本分科会では、まずは持続可能な開発とはどのようなものであるかをしっかりと認識することを大目的とし、それに関わる教育活動を行うための根本的な共通認識を持つことを目指した。主な活動内容としては、地域の事象はそれぞれジオ・エコ・ひとのなかのどの分野と関係があり、どのような相互関係を持っているのか、またそれらのバランスや関係性を見ながら、地域の持続可能な状態とはどういうものなのかについて参加者同士で議論した。その他、講演やまとめの中でＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）やＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）について紹介し、これらがジオパークにおける教育と共通する視座に立っているということも共有した。

内容

09：00～09：05　事務連絡
09：05～09：15　分科会の趣旨、グループワークの説明
09：15～10：05　グループワーク①
⑴　各地域にある課題や事象について、地域が大規模に開発される以前のこと、現在のことを、それぞれ付箋に書きだす。
⑵　模造紙の左半分に三等分の線を書き入れた円を描き、それぞれの該当箇所に「ジオ」「エコ」「ひと」と書き入れる。大規模に開発される以前のことが書かれた付箋を「ジオ・エコ・ひと」の中でどの部分に一番関係した事柄か考えながら配置する。
⑶　関係する付箋同士を線で結び、地域の「ジオ・エコ・ひと」のバランスや関係性について考える。
10：05～10：30　講　演
「ジオパークの教育とＥＳＤ」　講師　山本 隆太（静岡大学）
これまでにジオパークとして行われた教育に関する議論や事業などを報告した上で、ジオパークが目指す教育とＥＳＤの関連性や親和性について話し、ジオパークでの教育が学校教育で活用される意義や有用性について紹介した。
10：30～11：30　グループワーク②
⑴　模造紙の右半分に、「ジオ・エコ・ひと」に分割された円を描く。現在の事が書かれた付箋をそれぞれ適切な場所へ配置する。
⑵　関係する付箋同士を線で結び、各地域における現在の「ジオ・エコ・ひと」のバランスや関係性について考える。
⑶　グループワーク①で作成したものと比較し、現在の「ジオ・エコ・ひと」のバランスや関係性がどのような状況か、また過去から現在、さらには将来にかけての変化について議論する。それらを踏まえて、目指すべき持続可能な状態はどのようなものなのかについて考察する。
11：30～11：50　まとめ

11：50～12：00　事例紹介

最後に参加者の要望により、実際にジオパーク側から学校へどのようにアプローチしているかについて、参加者同士情報を共有した。

まとめ

本分科会のグループワークで行ったことは、持続可能な開発について考察する際の考え方の基礎となる部分である。この考え方を参加者が地域に持ち帰り共有することで、各地域における教育活動をはじめとした様々なジオパーク活動に関する理解や議論が促進されることが期待される。また、講演やまとめではＥＳＤやＳＤＧｓにも触れたが、ＥＳＤは平成29年３月に策定された新学習指導要領等の全体において基盤となる理念として組み込まれており、文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会がユネスコスクールを拠点とし推進してきたものである。ジオパークにおける教育が、これらと目標を同じくし、親和性を持っているという認識がジオパーク側だけでなく学校現場にも広まることで、ジオパークにおける教育活動と学校教育とが連携して活動を進めることができる。本分科会がそのきっかけ作りの第一歩となることを期待している。

企画運営者の総括・感想

持続可能な開発のための教育と、ジオパークにおける教育活動、どちらもその意味するところを理解するのはなかなか難しい。その基本的な部分となる、持続可能とは、ということをとにかく考えた分科会であった。平成29年５月の全国研修会でも取り組んだ内容だけに、理解がより進んだ人や、そのような人の周りで新たな参加者も理解がより進みやすかったように感じる。ただ、まだほとんど概念的な部分についての議論に留まっているので、次の場では、実際の教育活動を意識した議論につなげることが求められる。

10年後に向けたKey Words　「ジオ・エコ・ひとの関係をみつめなおし、ジオツーリズムや保全とのつながりを意識した教育」

文　責：山﨑 由貴子（ゆざわジオパーク）

分科会❹ ガイド技術を考える ーインタープリテーションの視点からー

参加者数 146名

企画運営

ガイドワーキンググループ／磐梯山ジオパーク
蓮岡　真（磐梯山ジオパーク）／西谷 香奈（伊豆大島ジオパーク）
○特別招聘講師
古瀬 浩史（帝京科学大学・日本インタープリター協会）
○ＮＨＫ「ブラタモリ」案内人話題提供者
鈴木 雄介（伊豆半島ジオパーク）／市橋 弥生（佐渡ジオパーク）／蓮岡　真（磐梯山ジオパーク）
○サポート
福辻 京子（南紀熊野ジオパーク）／安藤 裕夫（伊豆半島ジオパーク）／山崎 真流子（阿蘇ジオパーク）
荒川 和子（茨城県北ジオパーク）／小池 拓也（下北ジオパーク）／高田 正澄（筑波山地域ジオパーク）

特設ＷＥＢサイト

概要

ガイド技術の向上は、ジオパークのブランド化に欠かせない重要項目である。2015年のジオパーク全国大会in霧島においてジオガイド300人余りで決めた「理想のジオガイド像2015」では、参加者からインタープリテーションに関する質問をたくさんいただいた。このような経緯から、今回の全国大会ガイド分科会の一つとして取り上げた。

内容

●**第０部**

「理想のジオガイド像2015」語句選択問題を開催時間までアイスブレイク的にグループで行った。

●**第１部**

インタープリテーションを上手く取り入れている番組が、ＮＨＫ総合の「ブラタモリ」である。見ている人も飽きさせず、案内役と一緒になって、各地の地形・地質と関係する文化・歴史を伝えている。まさに、目指したいジオガイド像である！「ブラタモリ」に出演したジオパーク専門員３人に、ガイドに応用できるポイントなどを伺った。古瀬浩史氏に講評をいただき第２部につなげた。

●**第２部**

第１部を受け日本のインタープリターを代表する古瀬浩史氏を講師に、インタープリテーションの概念や特徴と要点、その魅力的な活用方法を講義と実習を交えながら行っていただいた。主な流れと項目を以下に示す。

⑴　インタープリテーションとは？（講義）
⑵　やってみよう（実習）
　• フリップを用いた自己紹介　（Ａ４用紙４枚を用いて紙芝居方式で語る）
⑶　⑵を受けてインタープリテーションの要点と活用について（講義・実習）
　• 地域の自然や文化的な資源、博物館のコレクションなど、資源をベースとしていること
　• 様々な媒体、教材の活用・ストーリーのある「テーマ」の設定 ・体験の重視
　• 双方向、マルチなコミュニケーション ・参加者の興味や関心などによっても決まること
⑷　質疑応答

●**第３部**

大会宣言の「キーワード」を決める

まとめ

インタープリテーションとは 、自然公園やミュージアム等における「資源」を基盤とした教育的コミュニケーション である。資源を楽しむためにやってくる参加者は、「綺麗な景色」まではだれでもが感じられる。しかし、その自然が語るストーリーを誰もが読み取れるわけではない。そこで間にインタープリターがたって資源と参加者をつなぐ。その役割について講義と実習を交え行われた。特に話題提供のブラタモリの中にもでてきた「双方向性」については、同じ情報が含まれていても、双

方向なプログラムと一方通行なプログラムでは面白さが違うこと。またインタープリテーションには展示や印刷物も含まれる。実習ではフリップがあることで、相手に見てもらい考えてもらう双方向性のあるコミュニケーションが生まれる実感を得た。「教材」の活用と「物語の重要性」の一例の確認では、「ストーリー作り」も実習。「今日私はなぜここにいる」を説明するための物語では、単に言葉や名前､所属を知るよりも物語の方が頭の中に入りやすい。 単なる「情報」ではなく「ストーリー」は重要である｡インタープリテーションでは「ストーリー」を「テーマ」と呼ぶ。 Thematicなインタープリテーション（テーマに基づいたインタープリテーション）では、「テーマ」を「テーマ文」として整理することで、ガイドプログラムの中で一番伝えたいことも整理できる。また「体験」要素も含ませる。テーマについて想像したことを考え話し合い、フィールドで体験を通じた発見をしてもらう。そうすることで強く印象に残る。人は新しい情報をすでに持っており、経験や知識と照らし合わせ自分のものとして学んで行く。 インタープリターは参加者同士のコミュニケーションをうながしたり、既存の記憶を思い起こさせたりすることが大切である。以上の様なことが参加者約146名で共有され深められた。

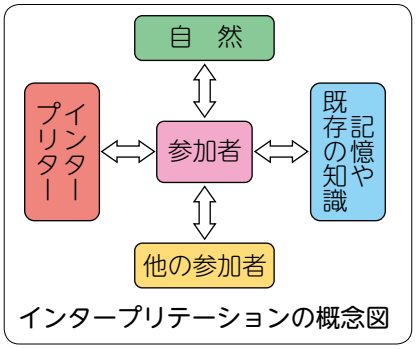
企画運営者の総括・感想

ガイドである『自分』を中心に考えるのではなく、中心には参加者であるお客様がいる。自分を中心につなげるのではない。これを間違えてしまうとガイドは自然の代弁者としてのインタープリターではなく、自然の代弁者のふりをして自分の伝えたいことを一方的に言っているに過ぎないガイドになってしまう。また、参加者が得る情報は自然やガイドからだけではない。一緒に参加している他のお客様（参加者）とのコミュニケーションから何らかの気づきが生まれ、興味が深まる。また人が元々持っている知識や経験もある。それらが双方向に交わることで「楽しかった」と言われるジオツアーが増えてくることを整理する事ができた。

最後に、講師の古瀬氏をはじめ分科会スタッフの仲間の素晴らしい連携による運営に感謝するとともに、スムーズな進行にご協力いただいた全国からの参加者の皆様ありがとうございました。

10年後に向けたKey Words

「お客様との双方向のコミュニケーションや体験・発見・感動を大切にした楽しいガイドを通して、地球からのメッセージを伝える」



インタープリテーションの概念図

文　責：蓮岡　　真（磐梯山ジオパーク）

分科会❺ ジオガイドの人材育成と団体運用について

参加者数 44名

企画運営

ガイドワーキンググループ／栗駒山麓ジオパーク
佐藤 英和／長尾　隼（栗駒山麓ジオパーク）
○コーディネーター
今井 ひろこ（山陰海岸ジオパーク・ガイドワーキンググループ）

概要

この分科会の実施にあたり、各ジオパークへ「ジオガイドに関するアンケート調査」を実施し、現状把握と課題の抽出を行った。結果、「ジオガイドの高齢化」や「ガイド機会の確保」等の課題もあったが、ジオガイドの資質向上の手法等を課題とする意見も多く、この部分に着目した。

ジオパークにおいては、ジオガイドの資質の維持向上は大きな役割を担っており、そのため各ジオパークでは、ジオガイド養成講座のほか、ジオガイドを対象としたスキルアップ講座により、資質の向上に努めている。人材育成に関しては各協議会事務局において企画運営を実施しているジオパークが多く、協議会職員や行政職員を対象に当分科会を行った。分科会では、ジオガイドのプロ意識や質が高いと思われる２地域の事例紹介を行い、その内容を元に各推進協議会事務局で抱えているジオガイド養成・ガイド団体運営等の大きな問題点や課題等を話し合い、ジオパーク推進協議会としての理想のガイド運営と人材育成についての方向性を導き出すため、グループワークを行った。

内容

1　趣旨説明

平成29年８月に実施した「ジオガイドに関するアンケート調査」の結果を報告し、各ジオパークにおける課題や現状を共有しつつ、分科会の進め方を説明した。

2　事例紹介

「洞爺湖有珠山ジオパークにおけるジオガイドの活動紹介と養成カリキュラム」について
発表者：三松 靖志（洞爺湖有珠山ジオパーク）
「ジオガイド養成の経緯と課題・展望」について
発表者：高橋　誠・田畑 朝惠（伊豆半島ジオパーク）

3　グループワーク

コーディネーター 今井ひろこ氏より、「２つの事例紹介を聞いて取り入れたいこと」をお題とし、円形ボードを用いたグループディスカッションを行った。途中、メンバーチェンジを行い、参加者の多くが交流し意見交換が出来るよう配慮しながら進行した。

まとめ

グループワークではボランティアガイドの必要性も意見としてあげられたが、ジオパークとして、ジオガイドの「やる気・意欲」を高めていくためには、始めからプロ（有償）ガイドを養成していくことが望ましく、結果としてジオガイドとなった人の責任感にも繋がることが期待できると思われる。そのため協議会事務局としては、プロ（有償）ガイド養成を意識した講座を組み立て、ガイド検定を経て、一定レベルのジオガイドの誕生を目指す。ジオガイドとしてなった後はスキルアップ講座を行い、知識と技術の向上を図りつつ、更新制度を導入することでガイドの質の担保へと繋げていくことが望ましい。

そして協議会事務局が抱えるガイド団体などは事務局から独立し、ガイド自らがツアーの構築を行いつつ、有償にてジオガイドを行っていくことが結果的に次代のジオガイドの確保にも繋がり、末永いジオパーク活動に結び付けられるものといえる。

企画運営者の総括・感想

ガイド分科会では今回初めて、協議会事務局の職員だけを対象に、ガイド養成後のガイド運営など『本音の意見交換』を試みた。事例発表では、ガイド組織の運営やマーケティングが自立できている洞爺湖・有珠山ジオパークと伊豆半島ジオパークの各ガイド組織の活動例からジオガイドのマネジメント成功例を聞くことができた。後半のディスカッションでは各推進協議会で取り入れたいこととして、①ガイドの有償化　②ガイドの質の確保・担保　③「プロ」ガイドの養成　の３つに話題が集中した。その中で私が特に印象に残ったのは、「ジオガイドという職業の存在を周知させること」。そして「次世代のためにお金を頂いてガイドするプロガイドの養成をしていく」という言葉であった。

今回の分科会をきっかけにジオガイド養成講座の内容や認定後の運営内容の見直しが図られることを期待する。また、今回の参加者からは概ね好評だったことから、定期的にこのような研修会が開催され、成功事例だけでなく失敗事例を共有できる環境が出来れば、ガイドレベルの底上げに繋がり、ジオパークのブランド化にも寄与できると考える。（執筆担当：今井ひろこ）

10年後に向けたKey Words 「『やる気、意欲』を維持する」

文　責：佐藤 英和・長尾　隼（栗駒山麓ジオパーク）

分科会❻ 新しいジオツアーブランドのコンセプトを作ろう！

参加者数 62名

企画運営

ジオツアー商品化ワーキンググループ／八峰白神ジオパーク

◯コーディネーター

福島 大輔（ＮＰＯ法人桜島ミュージアム）

◯サポーター

柚洞 一央（徳山大学経済学部）

斉藤 清一（ＪＧＮ事務局）

末岡 竜夫／山縣 智子／小原 北士（Mine秋吉台ジオパーク推進協議会）

概要

ジオツアーは、大地と人と自然のつながりを伝えるというジオパーク活動の中で最も重要な役割を担っているだけでなく、持続可能な仕組みをつくるための重要な手法でもある。そのため、質の高いジオツアーを日本中で提供できるようにするべきである。しかし、全国のジオパークで展開されているジオツアーの多くは、単なる情報の羅列であったり、特産品を食べるツアーに少しだけジオの解説がついているだけであったりと、何でもジオツアーと呼んでいる傾向があり、質がバラバラである。この分科会では、ジオツアーの質を担保するための指針をつくることを目的に「ジオツアーの質とは何なのか」を参加者で議論した。

内容

福島氏がコーディネーターを務め、テーマごとに５、６人でグループを作りワークショップを行った。また参加者は、立場や考え方が異なる中で「立場ではなく個人として」「ありのまま」「先入観を捨てる」「否定しない」をルールに自由で生産的な対話を心掛けた。

09：00～09：30　自己紹介
09：30～10：30　ワークショップ①「誰のため（お客様は誰？）」
10：00～10：30　ワークショップ②「お客様のニーズ」
10：30～11：45　休　　憩
10：45～11：15　ワークショップ③「ジオツアーは他のツアーとは何が違うのか（差別化、付加価値）」
11：15～11：45　ワークショップ④「ジオパークでジオツアーを行う意味とは？（何のため？）」
11：45～12：00　まとめ、10年後に向けたキーワードについて

まとめ

自己紹介では、全員で輪になって仕事・活動・趣味について紹介し、お互いの立場だけでなく個性を理解することで円滑なワークショップにつなげた。参加者は行政、民間会社、ガイドなど様々な立場でツアーに関わっており、それぞれが考える（目指す）ジオツアーの質について共通点と相違点が参加者の中で意識された。また地域で行っているツアーの事例紹介をする場面もあり、手法や課題を学びあうこともできた。

ワークショップ③「ジオツアーは他のツアーとは何が違うのか（差別化、付加価値）」では、例えば「観光とサイエンス（地球科学）の組み合わせができるツアー」「旅の最後にメッセージがある、それまでの人生観が変わるようなツアー」といった有意義な意見が出された。冒頭では、テーマについて「今まであまり考えたことがなかった」と正直に発表する参加者もいたが、ジオパークがツアーを行う意味、ジオパークだからこそできるツアーについて、参加者は頭を悩ませて考えることが出来た。当初目指した新しいジオツアーブランドのコンセプト作りには至らなかったが、ジオツアーの質について参加者で議論が深まった。また、ジオツアーに対する認識や考え方に大きな幅があることも改めて確認した。

企画運営者の総括・感想

参加者が考えるジオツアーを「ありのまま」に共有できた分科会であったと思う。自分の立場に関係なく、地域の現状やツアーに賭ける想いを正直に訴えることができ、参加者が実に楽しそうに議論していたのが印象的だった。

今後はジオツアー商品化ＷＧで作成している「商品化を目指すジオツアーの定義（案）」の確定後、各地域で定義に沿ったツアーを提案募集し、ＪＧＮジオツアーブランドの認証やツアープロモーションにつなげていく予定。

10年後に向けたKey Words 「質の高いジオツアー」

文　責：三輪　拓磨（八峰白神ジオパーク）

分科会❼ 国際連携と相互発展 ―A geopark takes you to a new world!!―

参加者数 32名

企画運営

国際連携ワーキンググループ／下北ジオパーク

○コーディネーター

古澤 加奈（ＪＧＮ事務局）／ヤゴダ・ヴォウォシェン（隠岐ユネスコ世界ジオパーク）／大岩 根尚（合同会社むすひ代表社員）

概要

日本ジオパークネットワークの国際連携ＷＧは、2015年11月に世界ジオパークネットワークの事業がユネスコの正式事業となったことを受けて、ユネスコ世界ジオパーク認定地域および日本ジオパークネットワークの国際貢献を目的として再編されたワーキンググループである。また、国際連携ＷＧでは、ユネスコ世界ジオパーク認定地が偏在するアジア太平洋地域でのジオパーク活動育成支援を通じて、途上国における持続可能な発展のための「キャパシティ・ディベロップメントの具体的モデル」の構築を目指し、５か年計画で途上国からの全国大会、審査員研修会への招へい事業の開催、該当地域でのワークショップの開催等を実施している。

２か年目の事業として、第７回全国大会に引き続き男鹿半島・大潟ジオパークで開催された第８回日本ジオパーク全国大会男鹿半島・大潟大会に７カ国（カンボジア、インドネシア、カザフスタン、マレーシア、ネパール、フィリピン、タイ）から７名の関係者を招へいし、全国大会への参加と洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパークでの現地研修を開催した。

内容

１．プログラムミーティングの開催：10月25日　9：00～12：00

本事業の目的と概要を説明した後、世界ジオパークネットワークの活動概要および島原半島におけるジオパークを活用した防災活動概要、日本ジオパークネットワークの活動概要についてそれぞれ発表を行い、それぞれの発表に対しての意見交換を行った。また、招へい者による自国の状況説明を行い、参加国の状況についての情報共有を行った。

- 国際連携ＷＧリーダー挨拶：野邉 一寛（隠岐ユネスコ世界ジオパーク）
- 世界ジオパークネットワークの活動概要：松原 典孝（山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク）
- 島原半島ジオパークにおける活動概要：大野 希一（島原半島ユネスコ世界ジオパーク）
- 日本ジオパークネットワークの活動概要：古澤 加奈（日本ジオパークネットワーク事務局）
  ヤゴダ･ヴォウォシェン（隠岐ユネスコ世界ジオパーク）
- 各国における取り組み状況の概要説明：各招へい者

２．分科会７：国際連携と相互発展についての分科会を開催：10月26日　9：00～12：00

① ペアワークを用いたアイスブレイクの開催

柔軟で意見の出やすい関係性や雰囲気をつくるために、会場の全員が２人１組のペアを作り、「感謝」というキーワードで思い浮かぶことは、これからの世代に伝えたいことは、などのトピックについて会話をおこなった。

② プレゼンテーション

- 国際連携ＷＧの活動概要と分科会の位置付けについて：古澤 加奈（ＪＧＮ事務局）
- 火山マイスターとしての取り組み紹介：川南 恵美子（洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク）

  洞爺湖有珠山ジオパークで火山マイスターとして活躍する川南恵美子氏が、ジオパーク活動を通じてどのように人生が変わったのかについての体験談を話した。
- ジオパーク活動によって起業した経緯：大岩根 尚（合同会社むすひ代表社員）

  三島村・喜界カルデラジオパークでジオパーク推進協議会事務局員として関わった経験を活かして、三島村で起業した経緯についての体験談を話した。

③ グループワークの開催

今回のワークショップの目的である、実際の支援を考える上での参考とするために７カ国のグ

ループに分かれ、それぞれの国における状況説明を行った後、自分の国における課題や必要とする支援についての意見交換を行った。

3．洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパークでの現地研修会の開催：10月27、28日

洞爺湖有珠山ジオパークでの現地視察では、ジオツアーと教育、火山における減災教育、大地の恵みをテーマとしたジオツアーの実施とアポイ岳の活動紹介、洞爺湖有珠山地域の大地の恵みを伝える“ジオストーリー”についてのプレゼンテーションを行った。

まとめ

第７回伊豆半島大会に引き続き二度目の分科会の開催であったが、招へい者も含めて日本側からの参加者も初めて分科会に参加した人がほとんどであり、国際連携ＷＧへ平成29年度から参加した人も半数近くであったため、ＪＧＮ活動の理念や目的、国際連携の必要性を改めて確認する良い機会となった。

また、各国の状況を共有することによって、ジオパーク活動を通してどのような支援が求められていて、ＪＧＮとしてどのような支援が出来るのかについて具体的な内容まで踏み込んで議論できたことは大きな成果であり、ＯＤＡ事業への取り組みも含めて、次年度以降のＪＧＮ国際連携ＷＧの活動方針を検討する上で重要な役割を果たすことができたと考える。

企画運営者の総括・感想

今回の分科会は、第７回伊豆半島大会に引き続き国際連携ＷＧが主体となって取り組む「政府開発援助ユネスコ活動費補助事業」の一環として、全国大会への参加とユネスコ世界ジオパーク地域における現地研修会を実施したが、７カ国から各１名の招へいとなると、各国における取り組み状況や個人レベルでの意識の格差があり、ユネスコ世界ジオパーク、日本ジオパークネットワーク、ＪＧＮ国際連携ＷＧが実施する招へい事業等の概要を共有するための時間を多く取る必要があった。また、招へいに伴う旅券の確保、ビザ申請についても各国の状況の違いによって手間取ってしまった。

今後は、招へい国の数を減らす一方で、１国からの参加者を増やすことによってより具体的な支援事業の実施に向けての意見交換ができればと思う。

参加者からは、日本におけるジオパーク活動の現状や多くの人々が集う全国大会の雰囲気、ジオパーク活動による具体的な地域発展の取り組み状況を直接体験することができ、大変興味深い成果を得ることが出来たとの感想がほとんどであった。

10年後に向けたKey Words「コミュニケーションと相互理解」

文　責：野邉　一寛（隠岐ユネスコ世界ジオパーク）

分科会⑧ 学術研究者とジオパーク専門員がつくるジオストーリー

参加者数 53名

企画運営

林 信太郎／鳥海山・飛島ジオパーク
○コーディネーター
林 信太郎（秋田大学）／宮原 育子（宮城学院女子大学）／岸本 誠司（鳥海山・飛島ジオパーク）

概要

2016年の伊豆半島でのＪＧＮ全国大会分科会「ジオストーリー」では、ジオストーリーを「地球の新たな価値を創造するために、地学的事象およびプロセスとそれら以外の要素を組み合わせることによって作られる物語」と定義し、参加者がジオストーリーについての共通認識を持ちつつワークを行った。今回の分科会ではこれまでの経緯を踏まえ、より発展的に内容を深めることを目的に、学術研究者と専門員が主体となってジオストーリーづくりに取り組んだ。

分科会では、三陸ジオパーク、佐渡ジオパーク、おおいた豊後大野ジオパークを対象に、ジオ（地質・地形）、エコ（生態）、ヒト（歴史文化）のそれぞれの専門分野の視点を活かしたワークを行い、個性的で魅力あふれるジオストーリーづくりに取り組んだ。

内容

分科会のタイムスケジュールは次の通り。

09：00　概要説明
09：10　３つのジオパークの概要とジオストーリー説明
09：45　グループワークの手順説明とグループワーク（７テーブル）
11：10　まとめの発表（３分×７）とコメント
11：50　全体のまとめ
12：00　終　　了

テーブル	対象ジオパーク	ジオストーリーづくりの視点	参加者	とりまとめ役	グループワークで生まれたジオストーリー	概要
1	三　陸	地質・地形	8	鵜飼 宏明さん（天　草）	話し合いで見つけた「白亜紀の貯金」	三陸GPは南北に長い。北は白亜紀の地層が隆起し侵食された地形に自然文化が生まれた。南は白亜紀の火成活動を源とする鉄鋼業が発達。ともに「白亜紀の貯金」で暮らしが成り立ってきた。
2	三　陸	生　態	8	平田 和彦さん（千葉県立中央博物館）	北と南といつまでも食べ分ける	早池峰山を境にして北と南に大きな生態の差異がある。その差を生んだ地質・地形・気候を理解して、南北の美味いものをいただこう。カキ、ホタテ、ウニ、鮭、ホヤ、アワビetc
3	佐　渡	地質・地形	6	福井 海世さん（三島村鬼界カルデラ）	佐渡の割れ目！	佐渡の地形・地質は、断層と隆起でできた「割れ目」が特徴。割れ目には金銀が生まれ、砂金も採れた。赤玉石も割れ目で産出された。横井戸は割れ目の水脈をめがけて掘られたもの。
4	佐　渡	生　態	8	吉田 政敬さん（月　山）	北限のみかんはどう生まれた？	佐渡の自然は南北差が大きい。南佐渡羽茂は温州みかん栽培の北限。この地は冬の季節風の影響も少なく温暖。更新世の火山堆積物の地層はなだらかな台地をつくり、かんきつ栽培にも適している。
5	佐　渡	歴史文化	5	佐藤　充さん（栗駒山麓）	海流と人の移動が生んだ歴史文化	対馬海流によって西から絶えず人と物の流れがある。近世のゴールドラッシュで人口が激増、多様な食文化が生まれ芸能が定着した。さまざまな生き方と物語が生まれた。山椒太夫は悲哀の流離譚。
6	おおいた豊後大野	地質・地形	7	中村 有吾さん（室戸） 山口 朱美さん（箱根）	プレート運動がつくった酒まんじゅう	プレート運動によって生まれた阿蘇。火砕流がつくった地形に暮らしや文化が育まれている。湧水、石風呂、石仏、石橋、信仰。稲作地帯では酒まんじゅうが、畑作地帯ではダゴ汁が生まれた。
7	おおいた豊後大野	歴史文化	4	豊田 徹士さん（おおいた豊後大野）	ダイジなダイズをダイジに運ぶ	「岡大豆」は阿蘇火砕流がつくった丘陵地で栽培され、遠く大坂の市場に運ばれた。大野川にはいくつもの難所がある。人々はこの難所をどのように克服し貴重な大豆を運ぶことができたのか。

ワークを効果的に行うために、事前に参加者の人数とそれぞれの専門分野を把握し、７つのテーブルを準備した。ワークは３つのジオパーク（三陸ＧＰ、佐渡ＧＰ、大分豊後ＧＰ）のいずれかを対象として、３つの専門分野（地質・地形、生態、歴史文化）のいずれかの視点を活かしたジオストーリーづくりを行うもので、あらかじめ７つのテーブルにはとりまとめ役を決め、事前に基礎資料の読み込みをお願いした。また、各テーブルにはマップや観光パンフなどの資料を準備した。

グループワークに先立ち、三陸ジオパークの熊谷誠氏、佐渡ジオパークの貞包健良氏、大分豊後大野ジオパークの豊田徹士氏からそれぞれのジオパークの概要とジオストーリーの特徴が紹介された。続いて、参加者を７つのテーブルに振り分けグループワークを実施した。ワークに割いた時間は約85分、各テーブ

ルでは時間が経つにつれ盛んに意見が飛び交い、大いに盛り上がった。その後各テーブルあたり３分の発表を行い、コーディネーターと参加者代表がコメントを加えた。表はワークの概要をまとめたものである。

まとめ

本分科会では参加者の個々の専門性を活かし、新しいジオストーリーづくりに挑戦した。テーブルごとにジオストーリーづくりの視点を変え、とりまとめ役を事前に調整するといった準備も功を奏し、活発なワークが進んだ。

ジオパークは、地質・地形好きの人はもちろんのこと、生き物や歴史に興味がある人など誰もが楽しめるべきものである。ジオパークの裾野が広がるにつれ、自然科学、人文科学を問わずさまざまな専門分野の研究者、専門員がジオパーク活動に関わるようになった現在、ジオ／エコ／ヒトのどこを入り口としても個性的で魅力あるジオストーリーが生まれることを実感することができた。

本分科会の10年後に向けたキーワードは「多様性」とした。多様性あるジオストーリーの創出と活用は地域の総合的な価値を高めるとともに、ジオパークに関わる誰もがジオパークを身近に感じるために必要とされるものだろう。

企画運営者の総括・感想

ジオストーリーはジオパークの様々な要素を「つないで」作られる。大脳のニューロンのごとく、そのつなぎ方には多様性がある。今回の分科会では、ジオパークの中堅を担う人材に、他のジオパークのジオストーリーをお考えいただく中で、ジオストーリーの切り口、アイデアを生み出す体験をしていただくことを目的としていた（かなりの無茶振りである）。グループ作業の前半はアイデアの「産みの苦しみ」の段階でどのテーブルも苦闘している様子が見て取れた。悩むだけで何も構想が出てこないのである。グループ作業の後半で、なにかをきっかけにキーになるアイデアが生み出されると、それに触発されて、たちまちのうちにジオストーリーが生まれ、形が作られた。分科会の効果は主催者のもくろみ以上で、ジオストーリーのアイデアを生み出す苦しみと喜びを味わっていただいたこと、多様なアイデアが生み出されたこと、グループワークをリードすることに関して高い能力を発揮する参加者を発見できたことが収穫だった。もちろん、今回作成されたジオストーリーは、草案の状態である。今後、学術的な肉付けを行い、ジオパークの財産としていただければと思う。なお、日本のジオパークには人材が豊富で、未来が明るいと実感したことが個人的には大きな収穫だった。（執筆担当：林信太郎）

10年後に向けたKey Words　「ジオストーリーの多様性と共感」

文　責：岸本 誠司（鳥海山・飛島ジオパーク）

分科会❾ 人の暮らしとジオを考える分科会 ―黒曜石で人と地球の活動を繋ぐ―

参加者数 148名

企画運営

橋詰　潤（明治大学黒耀石研究センター、ＪＧＣ）／男鹿半島・大潟ジオパーク

概要

ジオパークでは地形・地質だけでなく、生態系や文化と地形・地質とのつながりも重視されている。しかし、こうした点を重視した取り組みはまだ不十分であることも多い。本分科会では、地球が作り残してきたものと人のくらしを守っていくために、人のくらしと地球のつながりの価値を知り、その価値を伝えていくきかっけを作ることを目的に開催した。本分科会は2016年に大規模な黒曜石原産地を有する白滝ジオパーク、隠岐ユネスコ世界ジオパーク、おおいた姫島ジオパークなどと組織した「黒曜石ネットワーク」メンバー間での議論を基に企画した。そのため、今回は古くから人と関わりがあり認知度も高い岩石資源である黒曜石を題材とした。分科会はシンポジウム形式で開催した。基調講演では、本分科会の目的や人のくらしと地球とのつながりをジオパークにおいて考えることの意義や黒曜石研究などを取り上げた。事例報告では、白滝、隠岐、姫島の黒曜石の特徴や人との関わり、ジオパーク活動の中での活用や保護・保全などについての具体例が示された。質疑応答を行った後、今後は黒曜石も含めた様々な素材を取り上げながら、人と地球のつながりを考えるための議論を継続していくことを参加者間で共有した。

内容

開催日：2017年10月26日（水）　会場：男鹿温泉交流会館 五風

09：00～09：45　趣旨説明、基調報告　橋詰　潤（明治大学黒耀石研究センター、ＪＧＣ委員）
「人と地球の活動のつながりを考える：黒曜石を題材にして」

09：45～10：45　事例報告①　熊谷　誠（白滝ジオパーク）
事例報告②　八幡 浩二（隠岐ユネスコ世界ジオパーク）
事例報告③　堀内　悠（おおいた姫島ジオパーク）

11：00～11：55　質疑応答・パネルディスカッション、まとめ

まとめ

今回は、黒曜石を題材に人と地球とのつながりを考え、両者のつながりの大切さを認識するきっかけづくりを行った。今後は、黒曜石を題材とすることで可能な議論を深めるとともに、さらにその他の多様な素材を取り上げていくことも必要と考えられる。

また、地球と人をつなぐ媒介として、今回は「黒曜石」を取り上げたが、現代を生きる人が地球とのつながりをより明確に意識できるように、このようなテーマでの会合が今後も広がることは、今後のジオパーク活動にとって有意義なものになるのではないかと考えられる。

企画運営者の総括・感想

今回は、事前申し込みをした方以外の一般参加も可能であったため、ポスターセッションに参加した学生の参加が見られるなど、より幅広い方々と共に今回のテーマを話し合う機会となった。一方で、幅広い参加者を対象としたことから、人のくらしと地球とのつながりを黒曜石を介して考えるきっかけづくりとしては成功したが、やや議論の焦点や論点が絞りづらくなった。今後は、より多くの参加者を得ながら人と地球とのつながりを考えていく場として運営する方向や、より論点や対象を絞った運営などを検討していく必要がある。次回の開催について現時点では具体化していないが、次回の全国大会で開催が検討されている分科会のテーマに合わせたプレジオツアーを、白滝ジオパークと連携して実施する案などについて協議を始めている。

10年後に向けたKey Words　「人のくらしと地球を守るためにその価値を伝える」

基　調　講　演

事例報告①（白滝ジオパーク）

事例報告②（隠岐ユネスコ世界ジオパーク）

事例報告③（おおいた姫島ジオパーク）

会場風景①

会場風景②

会場風景③

文　責：橋詰　　潤（明治大学黒耀石研究センター、ＪＧＣ委員）

分科会⑩ ジオサイトを理科教育に活かす実践例を知る

参加者数 32名

企画運営

男鹿半島・大潟ジオパーク
○コーディネーター
川村 教一（秋田大学教育文化学部、秋田県ジオパーク連絡協議会専門研究統括会）
鈴木 雅彦（男鹿市教育委員会）

概要

ジオパーク活動の中で、教育の関わりが重要視されている。特に学校教育との関係構築は、理科教育やふるさと学習との関わりから、重要なものとなっており、全国的に多くのジオパークで実践されている。

しかし、全国的に多くのジオパーク推進事業を担うのは、行政内の観光や企画部門であり、各自治体の教育委員会や学校との関係構築の上で、苦慮する声を聞くことがある。そこで、どのような提案、スタイルであれば、学校現場として受け入れやすいのか、教職員はどのような考えでいるのかを考え、男鹿半島・大潟での活用事例を踏まえて紹介する分科会とした。その中で、特に小中学校を中心とした理科教育支援に焦点を当て、全国的にも数少ない、教育委員会が運営するジオパークである当地の事例を参考とし、各地の悩みを共有し、地元で活かせる打開策を見出すことを目的とした。

内容

08：30	ホテルサンルーラル大潟　出発
09：00～09：20	ジオパーク学習センター館内見学【自由見学】
09：20～10：30	事例報告①：川村　教一（秋田大学） 「教員免許講習におけるジオパークを活かした理科教育視点の提供と地層・岩石学習のジオパークを通した学習支援事例」
11：00～12：10	事例報告②：鈴木 雅彦（男鹿市教育委員会） 「寒風山ジオサイトでの火山学習における学習支援事例」
12：10～13：00	昼食（寒風山回転展望台）
13：25	男鹿市民文化会館着

ジオパーク学習センターは、男鹿半島・大潟ジオパークの全体概要を知っていただく施設として、平成24年に開館した。主として、小中学生の校外学習に活用いただけるように設計している。本施設で全体を知り、実際の現地に行くことで、学習効果の向上を目的としている。また雨天時には、屋内で学習できるよう配慮している。そこで展示構成を見学いただいた上で、秋田大学の川村教授に、事例をご報告いただいた。学習センターは教員免許講習の場として活用いただいており、本施設を現場の教諭に知っていただく一つの機会となっている。実際に、本施設で講習を受けた教諭が、学校へ戻り、理科教育における校外学習の場として活用いただくことも多い。さらには、学習指導要領を確認した上で、地層や岩石学習のあり方を紹介した。

その後、男鹿半島・大潟ジオパークで火山学習を目的した現地学習で最も要望が多い、寒風山ジオサイトを訪れ、理科教員の視点で、寒風山をどう子どもたちに伝えているのかを紹介した。現地案内をした鈴木は、現男鹿市教育長であるが、中学校の理科教員として長年、理科の指導の携わっており、子どもたちへ、「こういう視点で伝える」、「学校現場はこういう学習を求めている」といった内容を紹介し、参加者と議論を深めた。

まとめ

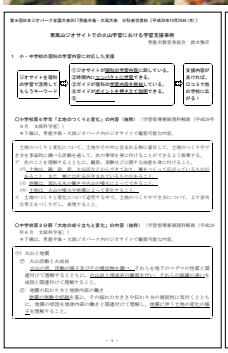
学校現場では、子どもたちへ効果的な学習を行うために、実際に目で見る校外学習を重視している。しかし、公立学校の教諭は、域内を異動するため、必ずしも赴任した学校周辺の効果的な校外学習スポットを把握しきれているわけではない。また、特に小学校教諭は専門科目のみを教えるのではなく、

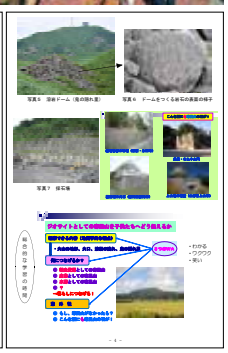
例えば、大学で理科を専攻していない教員であっても３年生からの理科を教えることとなる。そのような中で、ジオパークが果たせる役割は多く、まずは、教諭に効果的な学習スポットを提案できること、さらには、一定時間で、より良く、効果的な案内ができることを知っていただくことが、ジオパークを活用してもらう最善策である。また、最初からジオパークとは何かから始めるのではなく、地域の資産を見学した後、それが結果的にジオパークに結びつくといった帰納的な手法によって、地域を知っていただくことが重要であることを共有した。

企画運営者の総括・感想

参加者の半分ほどは現役の教諭であり、当初の想定より多かったが、男鹿半島・大潟ジオパークでの実践例を周知できたと考える。参加した方の中には「ジオサイトでの現地学習が理科の授業の一部として効果的である」ことや、「具体的な支援内容を学校に丁寧に伝えることで、ジオサイトを理科の学習で活用してもらえる可能性が広がるのではないか」といった意見が出た。こうした意見交換は、参加者だけでなく、実際に現地を活用している当地の教育への応用にとっても、有益なものとなった。当ジオパークの実践例を踏まえて、全国の子どもたちが、よりジオパークに親しみ、成績向上はもちろんのこと、郷土の資源を通し、実際に目で見て、触れたことを通して、記憶に残る授業を味わえることに繋がれば幸いである。

10年後に向けたKey Words 「未来への橋渡し」





文　責：五十嵐 祐介（男鹿半島・大潟ジオパーク）

大会３日目　10月27日（金）

エクスカーション（ジオツアー）

大会２日目終了後から大会３日目にかけて、男鹿半島・大潟、八峰白神、ゆざわ、鳥海山・飛島各地へ向けた全９つのツアーへ出発した。

今大会は東北ブロックでの全国大会ではあったが、移動時間を考慮して、ツアー先は秋田県内のジオパークに限定した。男鹿半島・大潟ジオパークでは、特別なコースというよりも、普段の活動やこれまで催行したコースをアレンジした形で、「食と絶景」、「男鹿のナマハゲと鬼」、「火山」、「大地の物語」、「自然と体験」、「干拓の歴史」をコンセプトにジオパークの視点を重視したコースを用意した。また、ゆざわジオパークでは「いにしえの火山の恵み」、八峰白神ジオパークでは「白神山地と人の営み」、鳥海山･飛島ジオパークでは「鳥海山の湧水、鮭漁、日本酒」をテーマとしたコースを設定した。

全コースともバスによるツアーであったが秋田県内のジオパークの魅力を知っていただく機会となった。

何よりも、受け入れ側ガイドにとっても貴重な経験となり、「これ以上厳しいお客様はいない！」という意識のもと、これからのガイド活動の発展に向けた礎の一つとなった。参加者の声は、アンケート結果を抜粋したものである。全コースのアンケート回収率は、90％であった。

1　大地のめぐみ食い倒れ！絶景拝み倒れ！
～五感で楽しむ半島と干拓地～

参加者	33名
１日目	八望台⇒入道崎⇒男鹿萬盛閣
２日目	男鹿萬盛閣⇒灯台荘⇒男鹿水産⇒寒風山⇒きりん亭⇒サンルーラル大潟⇒道の駅おおがた
ガイド	相場　博／小野 金弘／吉田 さみ子
参加者の声	ツアー総合評価は76％の方が満足以上の回答であり、平均点は85点であった。ストーリー性を強く感じた方は38％であった。最も評価されていた点は、安全管理・時間管理についてであり、「適切なアドバイスで管理されていた」などの意見があった。改善点で最多だったのは、マイクの使い方であり、「バス内や現地案内時、聞き取りづらかった」などの意見があった。

2 男鹿のナマハゲが継承される大地を見ねがっ！
～誰が作った？鬼が作ったと人は言う～

参加者	30名
1日目	真山伝承館・なまはげ館⇒元湯雄山閣
2日目	元湯雄山閣⇒鬼の隠れ道⇒寒風山⇒鵜ノ崎海岸⇒磯乃家旅館⇒赤神神社五社堂
ガイド	原田 富男／小野　学／澤木 幹子
参加者の声	ツアー総合評価は85％の方が満足以上の回答であり、平均点は85点であった。ストーリー性を強く感じた方は63％であった。最も評価された点は丁寧で分かりやすいという点であり、「細かく気にかけている、極力自分の言葉で伝えようとしている」などの評価をいただいた。改善点で最多だったのは、ジオストーリーについてであり、「ジオとヒトのつながりをもう少し感じたかった」などの意見があった。

3 Let’s 冒険ボルケーノ！
～歩いて比べる東北唯一のマール～

参加者	38名
1日目	一ノ目潟⇒別邸つばき
2日目	別邸つばき⇒八望台⇒二ノ目潟⇒男鹿水族館ＧＡＯ⇒寒風山
ガイド	澤木 博之／佐藤 光生／登藤 栄子
参加者の声	ツアー総合評価は85％の方が満足以上の回答であり、平均点は87点であった。ストーリー性を強く感じた方は27％であった。最も評価されていた点はおもてなしについてであり、「皆さんのおもてなしの心が温かく、また来たくなった」などの意見があった。改善点で最多だったのは、ジオストーリーについてであり、「ジオの話は十分だが、エコ・ヒトの話が足りなかった」などの意見があった。

4 滝＆奇岩クルーズ！
～太古の大地へタイムスリップ～

参　加　者	40名
1　日　目	男鹿市ジオパーク学習センター⇒温泉旅館ゆもと
2　日　目	温泉旅館ゆもと⇒乗船体験⇒門前なまはげ立像⇒汐瀬旅館⇒館山崎⇒海鮮市場
ガ　イ　ド	夏井　興一／永野　重明／天野　　真
参加者の声	ツアー総合評価は91％の方が満足以上の回答であり、平均点は81点であった。ストーリー性を強く感じた方は44％であった。最も評価されていた点はユーモアを交えた案内であり、「ユーモアたっぷりで分かりやすく楽しい」などの意見があった。改善点で最多だったのは、乗船体験についてであり、「クルージング説明時、エンジン音で聞き取りづらい」などの意見があった。

5 新たな大地が育んだ自然と恵み！
～大潟村の新米きりたんぽ作りで感じる人と大地の共生～

参　加　者	19名
1　日　目	大潟村干拓博物館⇒サンルーラル大潟
2　日　目	サンルーラル大潟⇒大潟草原野鳥観察舎⇒村内圃場⇒ポルダー潟の湯⇒道の駅おおがた
ガ　イ　ド	石原　敏子
参加者の声	ツアー総合評価は100％の方が満足以上の回答であり、平均点は91点であった。ストーリー性を強く感じた方は84％であった。最も評価されていた点は人が素晴らしいという点であり、「人間の魅力が輝いていた・暖かい」などの意見があった。改善点で最多だったのは、説明時間についてであり、「説明時間を短縮した方が良い」などの意見があった。

6 海抜マイナス4mの大地を踏む！
～53年目の湖底の大地と人の物語～

参加者	31名
1日目	寒風山⇒サンルーラル大潟
2日目	サンルーラル大潟⇒大潟村干拓博物館・道の駅おおがた⇒南部排水機場⇒大潟富士⇒経緯度交会点⇒サンルーラル大潟⇒農家ハウス⇒大潟村干拓博物館
ガイド	富田 博文
参加者の声	ツアー総合評価は83％の方が満足以上の回答であり、平均点は86点であった。ストーリー性を強く感じた方は65％であった。最も評価されていた点は体験談についてであり、「地元の人たちの経験に基づく説明が分かりやすかった」などの意見があった。改善点で最多だったのは、時間管理についてであり、「タイムキーパーが説明中に割り込んでくるのが気になった」などの意見があった。

7 秘境の大地はあったかい？
～見えない火山を見つけにいこう～

参加者	40名
1日目	多郎兵衛旅館
2日目	多郎兵衛旅館⇒不動滝⇒小安峡大噴湯⇒産地直売施設あぐり館⇒苔沼⇒川原毛地獄⇒ジオスタ☆ゆざわ
ガイド	今野 力司／阿部 哲矢／三浦 敏男／吉野 弘子
参加者の声	ツアー総合評価は86％の方が満足以上の回答であり、平均点は89点であった。ストーリー性を強く感じた方は41％であった。最も評価されていた点は小道具についてであり、「写真や図、パネルを使って分かりやすかった」などの意見があった。改善点で最多だったのは、体験を入れてほしいという点であり、「地域ならではの体験があるとより楽しい」などの意見があった。

8 白神の神秘を巡る！
～白瀑神社と十二湖めぐり～

参　加　者	38名
1　日　目	あきた白神温泉
2　日　目	あきた白神温泉⇒十二湖⇒椿海岸柱状節理群⇒白瀑神社⇒道の駅みねはま
ガ　イ　ド	山崎　典康／西出　　静／西巻　富子／岡本　忠直／能代高校科学部員
参加者の声	ツアー総合評価は90％の方が満足以上の回答であり、平均点は82点であった。ストーリー性を強く感じた方は11％であった。最も評価されていた点はおもてなしについてであり、「地域の人、ガイド、スタッフなどからおもてなしの心が伝わり良かった」などの意見があった。改善点で最多だったのは、ジオストーリーについてであり、「各サイトは素晴らしいのでジオストーリーをもう少し総括したらよい」などの意見があった。

9 SAKE（鮭・酒）で感じる鳥海山！
～火山が生み出す水と恵み～

参　加　者	38名
1　日　目	鳥海温泉 遊楽里
2　日　目	鳥海温泉 遊楽里⇒箕輪鮭漁業生産組合・牛渡川・丸池様⇒道の駅象潟「ねむの丘」⇒九十九島⇒(株)飛良泉本舗・ＴＤＫ歴史みらい館
ガ　イ　ド	伊藤　良孝／島貫　　陽／相馬　孝一／畠中　裕之
参加者の声	ツアー総合評価は87％の方が満足以上の回答であり、平均点は82点であった。ストーリー性を強く感じた方は38％であった。最も評価されていた点はジオ・エコ・ヒトの案内についてであり、「ジオとエコ・ヒトのつながり、生態系や歴史などを織り交ぜた説明が良かった」などの意見があった。改善点で最多だったのは、資料や小道具を使ってほしいという点であり、「地図が欲しい・各サイトの補足資料が欲しい」などの意見があった。

第８回日本ジオパーク全国大会2017　男鹿半島・大潟大会宣言

本大会は日本ジオパークネットワークが活動を開始して10年となる節目であり、全国大会がブロック単位で初めて開催されるという節目の大会であった。

わたしたちは「あしたへ」をテーマとした本大会において、これからの10年を見据えて、日本ジオパークと地域の明るい「あしたへ」つながる、なにかを模索して、議論してきた。その結果を踏まえて、ここに宣言する。

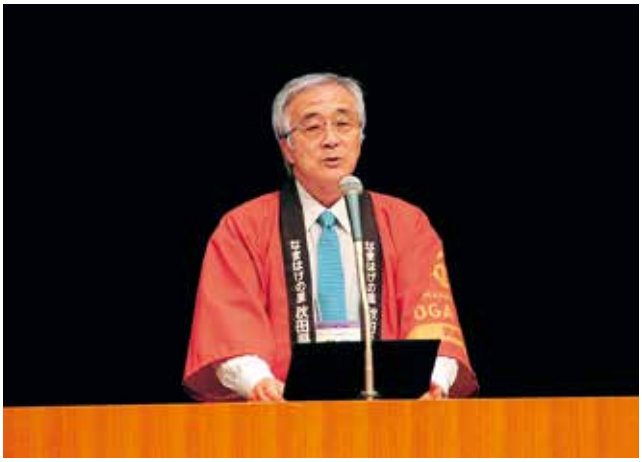
日本ジオパークと地域が、明るい未来とより良い発展を目指すため、これから先の10年を見据えた「あしたへ」必要だと考えるものは、

一．ジオパークをわかりやすく伝える
一．教育というあしたへの投資
一．ビジョンと戦略
一．知恵を出し合い、人と自然、人と人が折り合うこと
一．ジオ・エコ・ひとの関係をみつめなおし、ジオツーリズムや保全とのつながりを意識した教育
一．お客様との双方向のコミュニケーションや体験・発見・感動を大切にした楽しいガイドを通して地球からのメッセージを伝える
一．「やる気、意欲」を維持する
一．質の高いジオツアー
一．コミュニケーションと相互理解
一．ジオストーリーの多様性と共感
一．人のくらしと地球を守るためにその価値を伝える
一．未来への橋渡し

以　上

2017年10月26日

第８回日本ジオパーク全国大会男鹿半島・大潟大会実行委員会
実行委員長　秋田県男鹿市長　**菅 原 広 二**



各 種 広 報

歓迎看板・のぼり旗

市内外の主要施設からの協力のもと、歓迎看板設置やのぼり旗の設置を行い、歓迎ムードを醸成した。

協力機関・施設（市村関連施設を除く）

- 秋田空港
- ＪＲ秋田駅／ＪＲ男鹿駅
- 男鹿温泉郷各施設
- ホテルサンルーラル大潟
- 市村内各郵便局

秋田空港出口

秋田空港手荷物受取所

秋田空港手荷物受取所

秋田空港出発ロビー

市村内各郵便局

国道101号線沿い

ＪＲ秋田駅新幹線乗り換え口付近

ＪＲ男鹿線中吊り広告

ＪＲ男鹿駅出口

周 知 活 動

市村等の各種イベントに出展して、全国大会開催に関する告知や周知活動を行った。

- 飛鳥Ⅱ船川港寄港歓迎イベント（８月５日、９月７日）
- 男鹿日本海花火（８月14日）
- まるごと体験あきたのジオパーク（８月18日）
- ねんりんピック秋田2017（９月９～11日）
- あきた鉄道ふれあいフェスタ（10月14日）

男鹿日本海花火

まるごと体験！あきたのジオパーク

ねんりんピックあきた2017総合開会式

広報・印刷物

- 男鹿市、大潟村広報
- 男鹿市、大潟村ＷＥＢサイト
- 男鹿半島・大潟ジオパークＷＥＢサイト
- 男鹿駅伝競走大会パンフレット
- あきたタウン情報
- 大会チラシ
- 大会ポスター
- 秋田魁新報広告
- 河北新報広告
- ＡＢＳラジオ放送
- 秋田空港広告
- ＪＲ男鹿線広告

大会ポスター

大会チラシ（両面）

のぼり旗（２種）

大潟村広報（10月号）　男鹿市広報（10月号）

男鹿半島・大潟ジオパークＷＥＢサイト

男鹿駅伝パンフレット

あきたタウン情報（11月号）

作成・配布物

大会参加者へはオリジナルバックとともに、大会パンフレットやオリジナルキャンディ、各種パンフレットを配布した。

新 聞 掲 載

大会期間前後で、地元誌を中心に多くのメディアで本大会が取り上げられた。

河北新報・秋田魁新報（５月～10月）

インターネット
掲示用記事削除

第8回日本ジオパーク全国大会2017男鹿半島・大潟大会 参加者数

■ 大会参加者数／1,232人

No.	ブロック名	ジオパーク（地域）名	参加者数	ブロック参加者数	正・準
1	北海道	アポイ岳	29	83	正
2		洞爺湖有珠山	16		正
3		白　　滝	10		正
4		三　　笠	5		正
5		とかち鹿追	5		正
6		十 勝 岳	14		準
7		上川中部地域	3		準
		その他機関・企業・大学	1		－
8	東　北	磐 梯 山	10	328	正
9		男鹿半島・大潟	96		正
10		八峰白神	30		正
11		ゆ ざ わ	16		正
12		三　　陸	27		正
13		栗駒山麓	25		正
14		下　　北	34		正
15		鳥海山・飛島	44		正
16		蔵　　王	2		準
17		月　　山	19		準
		その他機関・企業・大学	25		－
18	関　東	伊豆大島	5	138	正
19		下 仁 田	10		正
20		茨城県北	10		正
21		秩　　父	5		正
22		箱　　根	21		正
23		銚　　子	13		正
24		筑波山地域	26		正
25		浅間山北麓	26		正
26		古関東深海盆	0		準
27		秋川流域	5		準
28		三 宅 島	0		準
29		那須烏山	11		準
		その他機関・企業・大学	6		－
	関係者	JGN・JGC・国機関	10	62	
		JGN海外招聘者	7		
		来賓・招聘者	45		
	非登録参加者	報道機関	7	297	
		一般来場者	250		
		運営協力者	40		

No.	ブロック名	ジオパーク（地域）名	参加者数	ブロック参加者数	正・準
30	中部甲信　越	糸 魚 川	14	134	正
31		南アルプス	5		正
32		恐竜渓谷ふくい勝山	8		正
33		白山手取川	23		正
34		佐　　渡	28		正
35		伊豆半島	23		正
36		立山黒部	4		正
37		苗場山麓	10		正
38		飛騨山脈	7		準
39		東 三 河	5		準
40		中央アルプス	4		準
41		飛騨小坂	1		準
		その他機関・企業・大学	2		－
42	中四国近　畿	山陰海岸	30	124	正
43		室　　戸	11		正
44		隠　　岐	6		正
45		四国西予	12		正
46		南紀熊野	8		正
47		Mine秋吉台	10		正
48		島根半島	14		準
49		土佐清水	14		準
50		萩	7		準
51		三 好 市	7		準
		その他機関・企業・大学	5		－
52	九　州	島原半島	16	66	正
53		阿　　蘇	4		正
54		霧　　島	4		正
55		おおいた姫島	6		正
56		おおいた豊後大野	9		正
57		桜島・錦江湾	7		正
58		天　　草	3		正
59		三島村・鬼界カルデラ	6		正
60		北 九 州	1		準
61		五島列島	2		準
		薩摩川内市	3		－
		その他機関・企業・大学	5		－
			合計	1,232	

■ 大会のべ参加者数／7,485人

日別参加者実数	2,643
24日	268
25日	1,232
26日	733
27日	410

10月24日（大会前日）のべ数	369
内訳：条件付再認定事前相談会	19
事前相談会（日本）	40
事前相談会（世界）	38
JGN運営会議	118
スタッフ	53
プレ交流会	101

10月25日（大会1日目）のべ数	4,671
内訳：メイン会場（ホール行事、スタッフ来賓含む）	1,232
メイン会場（ポスター、ブース展示）	1,232
サイトを学ぼう！楽しもう！（NPO主催事前ツアー）	41
ジオの恵み物産展関係者・来場者	1,300
JGN事務局長会議	75
大交流会	770
JGSセミナー（日本ジオサービス主催）	21
※スタッフは参加登録者に計上	

24～28日ののべ数の合計	7,485

10月26日（大会２日目）のべ数	2,033
内訳：分科会①『トップが考えるジオパークと地域振興のあした』	65
分科会②『海の崖からサイトの保全を考える』	45
分科会③『ジオパークにおける持続可能な社会のための教育』	68
分科会④『ガイド技術を考える』	146
分科会⑤『ジオガイドの人材育成と団体運用』	44
分科会⑥『新しいジオツアーブランドのコンセプトをつくろう！』	62
分科会⑦『国際連携と相互発展』	32
分科会⑧『学術研究者とジオパーク専門員がつくるジオストーリー』	53
分科会⑨『人の暮らしとジオを考える』	148
分科会⑩『ジオサイトを理科教育に活かす実践例を知る』	32
分科会昼食当日注文	
メイン会場（ホール行事）	650
メイン会場（ポスター、ブース展示）	650
スタッフ	38
※分科会参加者総数：695名 ※エクスカーション参加者は27日に計上	

10月27日（大会３日目）のべ数	410
内訳：ツアー①『大地のめぐみ食い倒れ！拝み倒れ！』	33
ツアー②『男鹿のナマハゲが継承される大地を見ねがっ！』	30
ツアー③『Let's冒険ボルケーノ！』	38
ツアー④『滝＆奇岩クルーズ』	40
ツアー⑤『新たな大地が育んだ自然と恵み！』	19
ツアー⑥『海抜マイナス4mの大地を踏む！』	31
ツアー⑦『秘境の大地はあったかい？』	40
ツアー⑧『白神の神秘を巡る！』	38
ツアー⑨『SAKE（鮭・酒）で感じる鳥海山！』	38
スタッフ	103

10月28日（オプション）のべ数	2
内訳：ゆざわオプショナルツアー	2

実行委員会・運営協力者名簿

実行委員会名簿

実行委員長	男鹿市長	菅原 広二
副実行委員長	大潟村長	髙橋 浩人
実行委員	男鹿市教育委員会教育長	鈴木 雅彦
実行委員	大潟村教育委員会教育長	北林 強
実行委員	（一社）男鹿市観光協会長	武内 信彦
実行委員	（株）ルーラル大潟 支配人	荒谷 光幸
実行委員	ＮＰＯ法人あきた地域資源ネットワーク理事長	白石 建雄
実行委員	男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会長	澤木 博之
監事	男鹿市商工会長	加藤 義光
監事	大潟村案内ボランティアの会長	石原 敏子
アドバイザー	秋田地域振興局総務企画部長	成田 光明
事務局	男鹿市教育委員会生涯学習課／大潟村干拓博物館	

実行委員会設立総会

大会直前に行った男鹿温泉郷でのクリーンアップ

大会運営協力者（順不同・敬称略）

総合司会 小坂 しおね／佐藤 海結（秋田県立秋田高等学校放送委員会）

手話通訳 保泉 朋子／加賀谷 千春／歩仁内 ゆかり

スタッフ 鐙 啓記／永井 登志樹／渡邊 由紀子

澤木 博之／相場 博／秋山 協子／天野 真／小野 金弘／佐藤 ミチヨ／鈴木 和子／夏井 興一／樋熊 正夫／藤原 儀弘／三浦 大介／三浦 由美子／吉田 さみ子／川辺 謙三／佐藤 佳林／佐藤 光生／澤木 幹子／杉本 真寿美／登藤 栄子／夏井 千津子／原田 富男／藤井 恵美子／保坂 幸子／松橋 敬子／三浦 由美子／宮崎 清／阿部 久和子／小野 学／坂本 広一／菅原 耕治／杉山 武／髙橋 三幸／永野 重明

石原 敏子／森本 好昭／藤村 ゆき／田子 哲／栢森 慶子／石原 琢也／工藤 兼雄／髙橋 武松／鎌田 悦子／前田 久夫／富田 博文／椎川 信一／宮田 洋子／斉藤 忠弘／見上 岳紘／堤 朗／坂本 みほ子／津島 修一／松橋 拓郎／山本 真喜子

木元 義博／鎌田 栄／岩谷 一徳／伊藤 直子／加藤 麻耶／五十嵐 祐介／渡部 公成／鈴木 紅美子／菊地 光和／船橋 強太／武内 春香／武田 健一／船木 一騎／髙橋 幸一／鈴木 十／原田 一生／清水 国裕／小野 央人／池田 徹也／千葉 聡／伊藤 瞳／渡部 健／加藤 武士

石川 歳男／荒関 智彦／佐々木 鶴代／進藤 智哉／宮田 征大／土佐林 学／床田 昭人／小貫 智美／小林 京子／菅原 聡／後藤 克司／藤原 郁子／西方 真樹子

半島と干拓が育む人と大地の物語
男鹿半島・大潟ジオパーク
Oga-Peninsula-Ogata Geopark

第８回日本ジオパーク全国大会2017男鹿半島・大潟大会

協賛企業・団体

八峰白神ジオパーク
Happo-Shirakami Geopark

八峰白神ジオパーク推進協議会

ゆざわジオパーク

湯沢市ジオパーク推進協議会

Mt.Chokai & Tobishima Island Geopark
鳥海山・飛島ジオパーク

鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会

Mapping & Communication
北海道地図株式会社

FUJI Xerox 富士ゼロックス 特約店
秋田ゼロックス

キラリ☆八峰
Hta×2
Happou tourism association
八峰町観光協会

自然由来電力
東北自然エネルギー株式会社
Tohoku Sustainable & Renewable Energy Co.Inc.

こまち農業協同組合
JAこまち
届けたい 美人の里から 大地の恵み

出光

出光興産株式会社

PLAT FORM
プラットホーム

株式会社プラットホーム

北都銀行

Special Thanks

男鹿半島・大潟ジオパークガイドの皆様

大潟村案内ボランティアの会の皆様

男鹿市・大潟村の皆様
男鹿市・大潟村の小中学生の皆様
秋田県立秋田高等学校放送委員会の皆様
日本ジオパークネットワークの皆様
男鹿市・大潟村の郵便局の皆様
秋田空港ターミナルビル株式会社
JR 秋田駅・JR 男鹿駅
株式会社山王電機製作所
武田水産株式会社・浦崎酒店
高橋 章子 様
本大会に関係いただいた全ての事業者の皆様
本大会にご協力いただいた全ての皆様

男鹿半島・大潟ジオパーク 検索